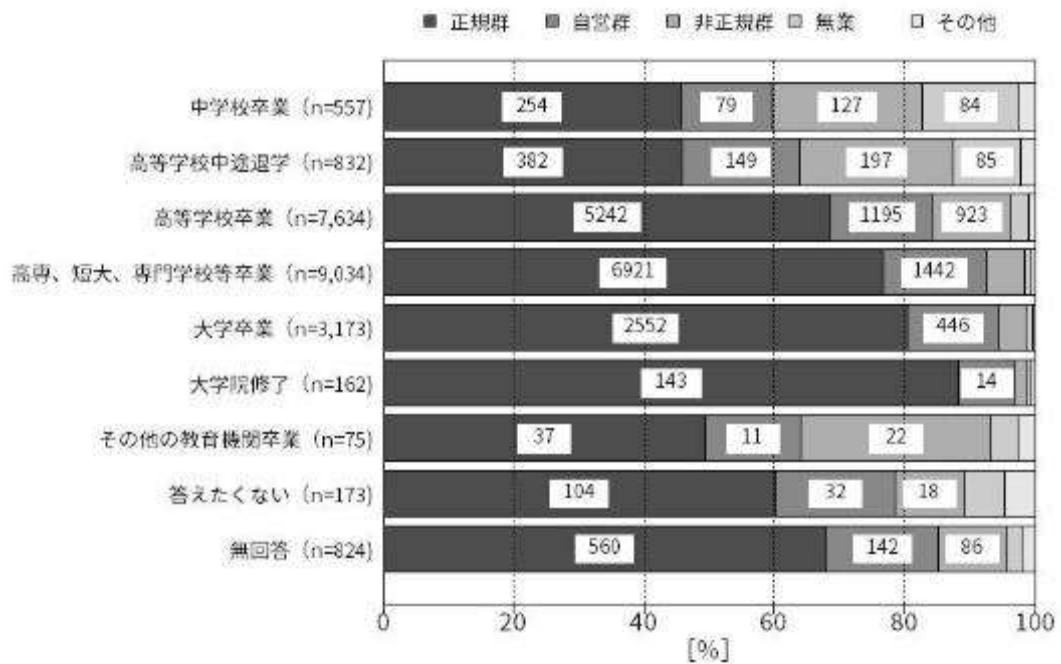


母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問 8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

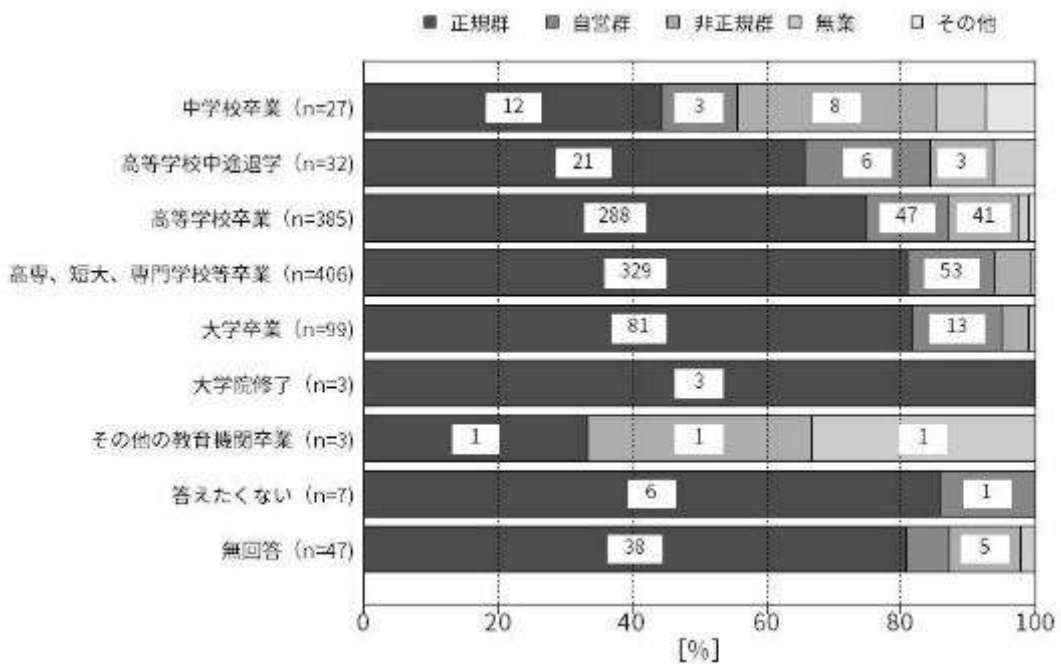
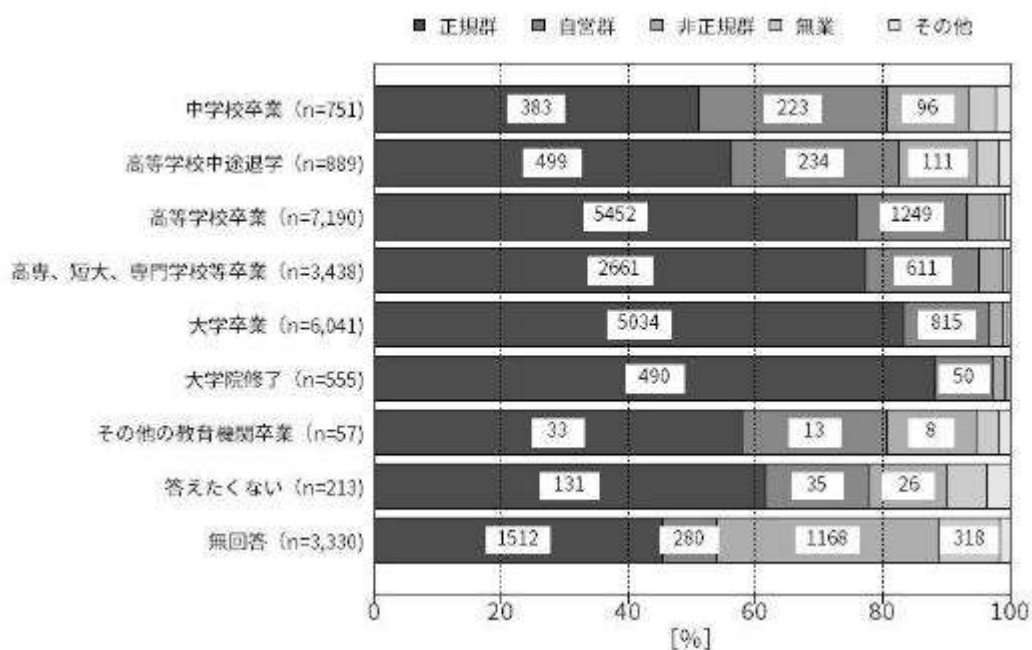


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市24区>



<大阪市西淀川区>

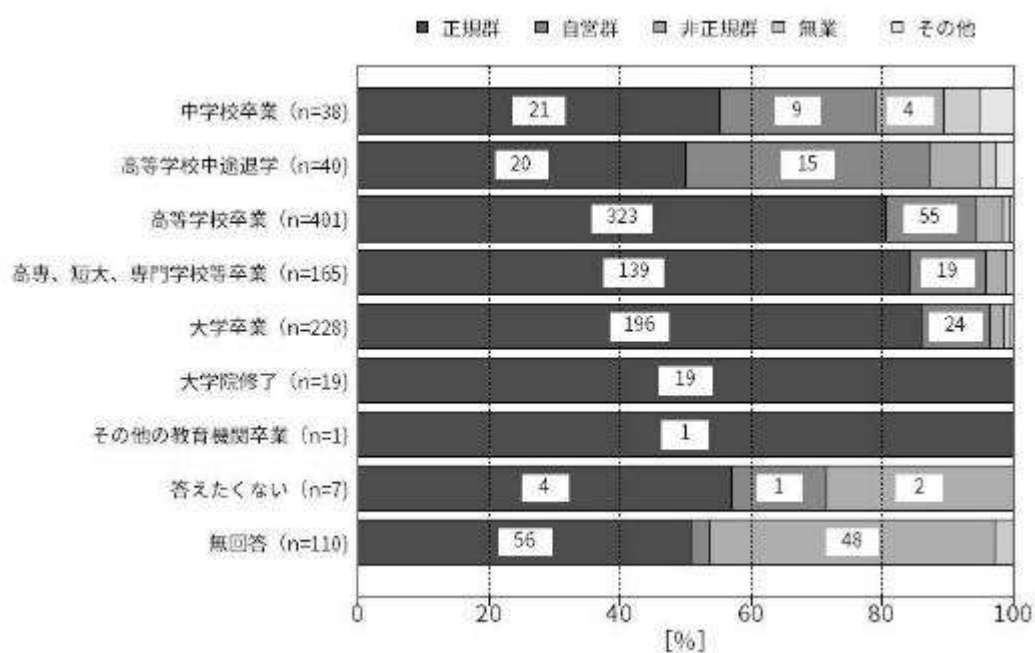
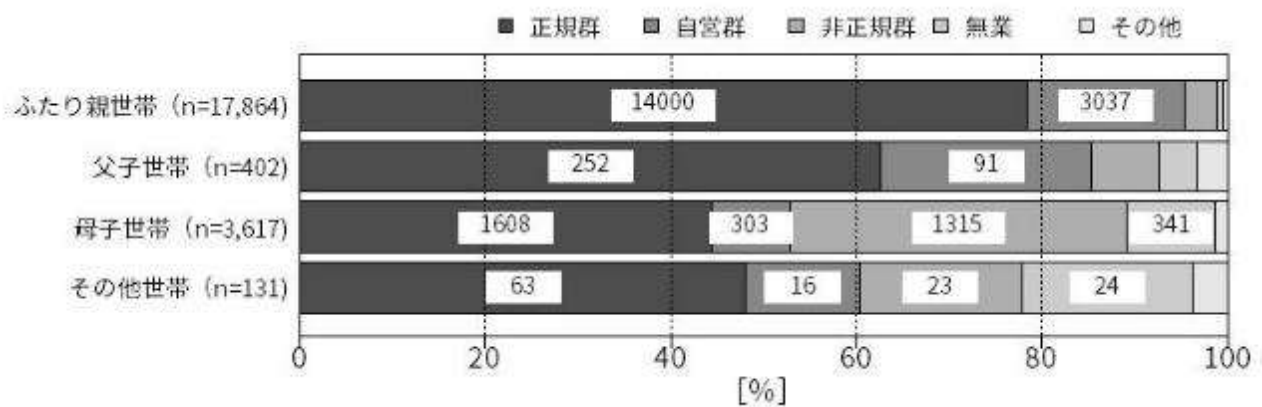


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

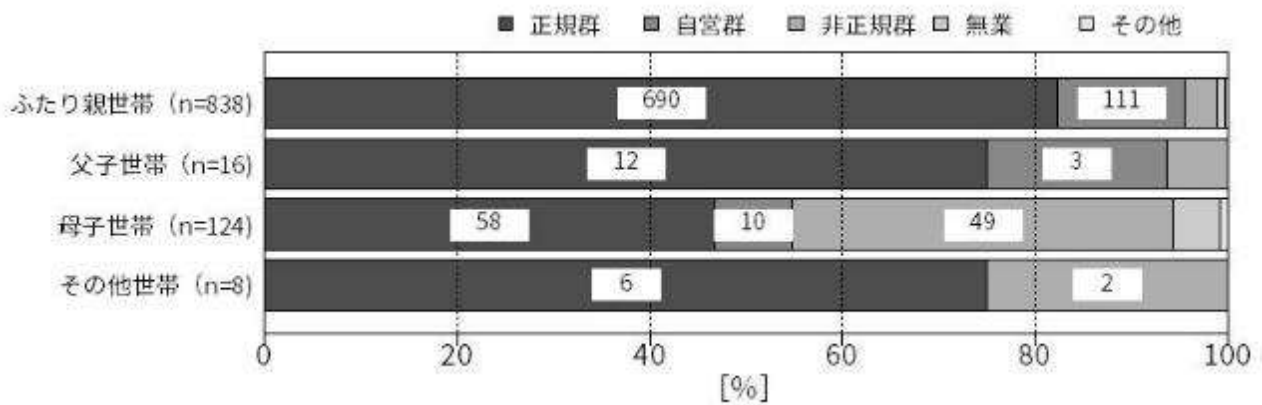
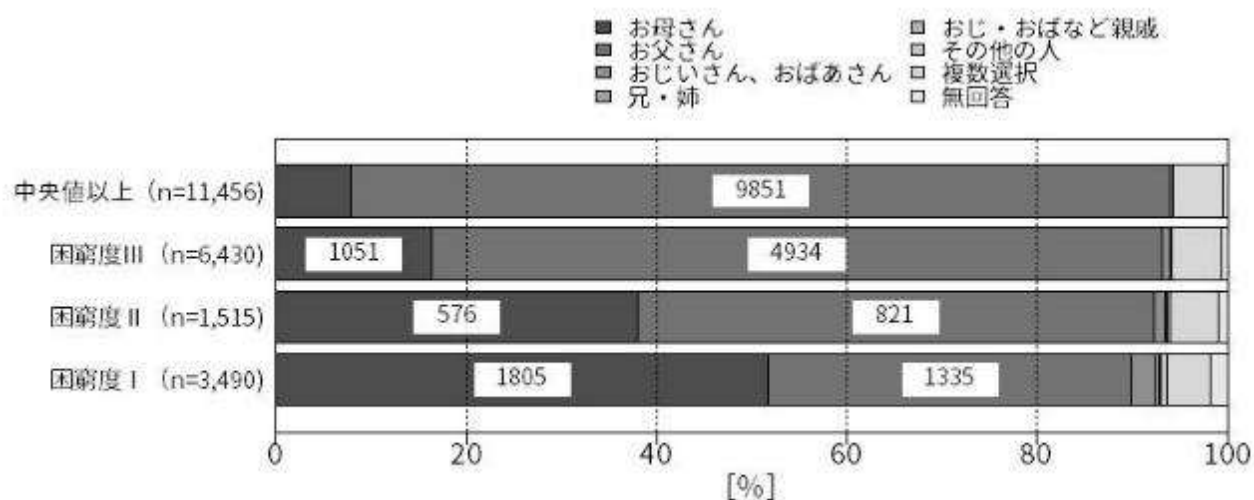


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 82.3%であったが、「父子世帯」では 75%、「母子世帯」では 46.8%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では 6.3%、「母子世帯」では 39.5%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票 問 30(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

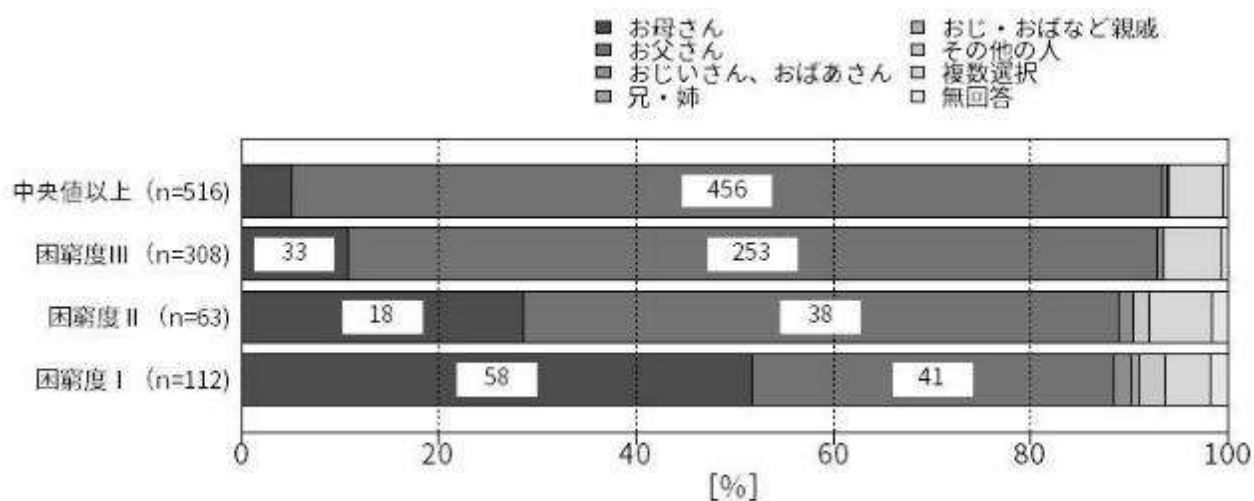
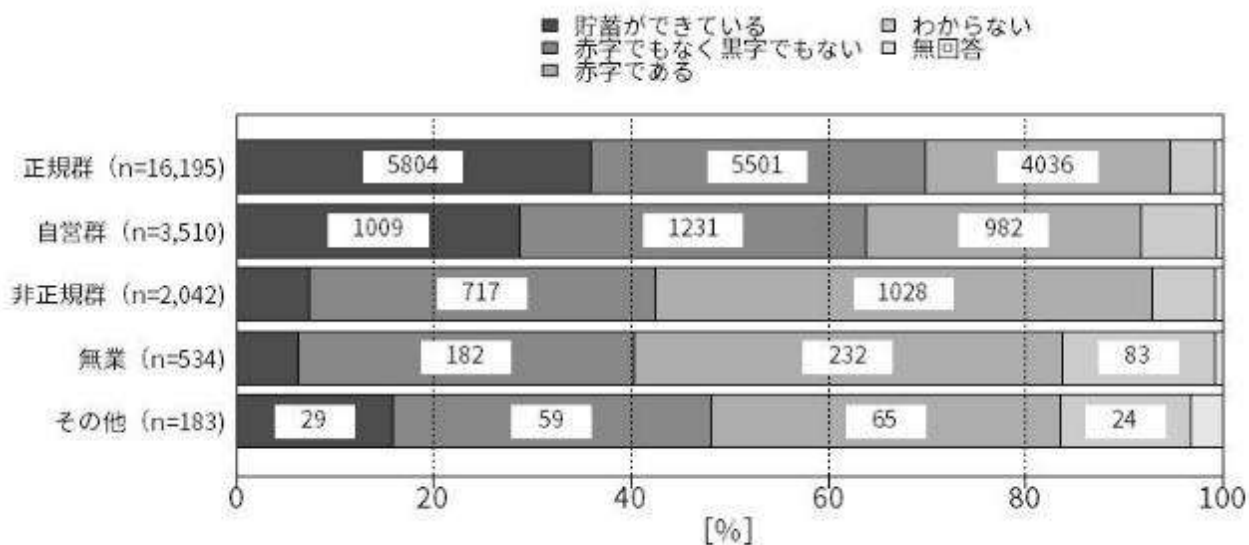


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 88.4%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 28.6%、困窮度Ⅰ群では 51.8%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市西淀川区>

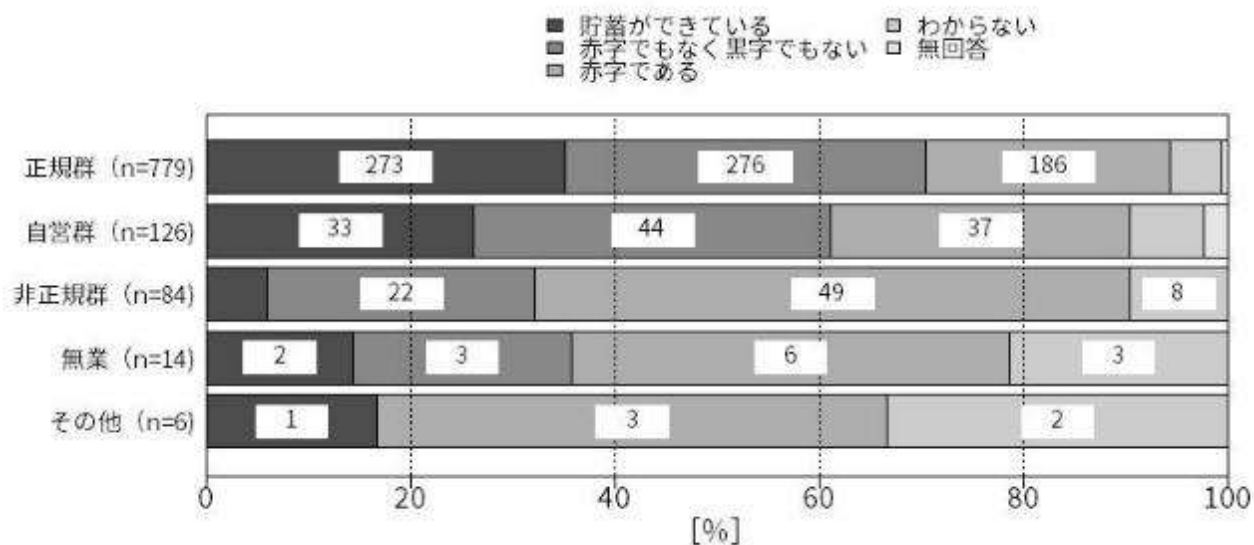


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、35.0%、26.2%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が58.3%であった。「赤字でもなく黒字でもない」群に大きな差は見られない。

<雇用に関する考察>

本調査では、雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが明らかになった。中央値以上の群では、92.0%が正規雇用を占める一方で、困窮度Ⅰの群では、35.6%であった。非正規雇用の割合は、中央値以上では0.7%であったにもかかわらず、困窮度Ⅰの群では41.4%であった。正規雇用であるにもかかわらず、困窮度Ⅰの群に属する世帯があるということは、ワーキングプアなどの問題を抱えている可能性もあることは留意しておきたい。

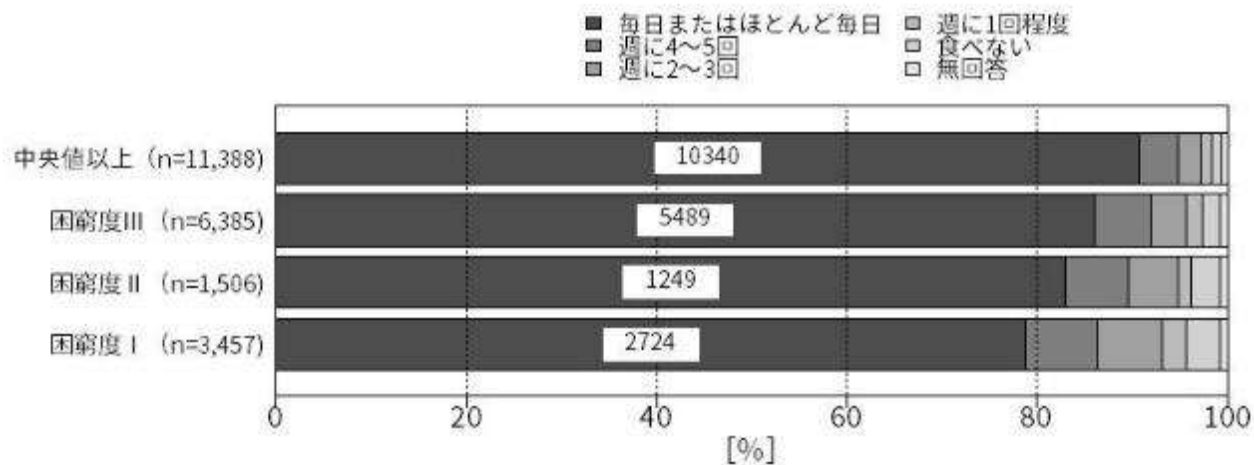
困窮度が高い群ほど、学歴が低いという結果も見られた。困窮度Ⅰの群では、大学卒である割合は父親で5.4%、母親で2.7%であったのに、中央値以上の群では27.5%と14.3%であった。中学卒、もしくは高校中退である割合は、中央値以上では父親が5.2%、母親が2.4%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では父親で11.7%、母親で13.4%が該当した。学歴が高い群ほど、正規雇用の割合が高かった。

雇用形態を世帯構成で分類した場合、母子世帯における非正規雇用の割合が39.5%と高い。主たる生計維持者が母親である場合、困窮度Ⅰの群に該当する世帯が多くなり51.8%となっている。雇用形態によって貯蓄状態にも差が見られた。正規雇用の35.0%は貯蓄ができていると回答した一方で、非正規群の回答は6.0%のみであった。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

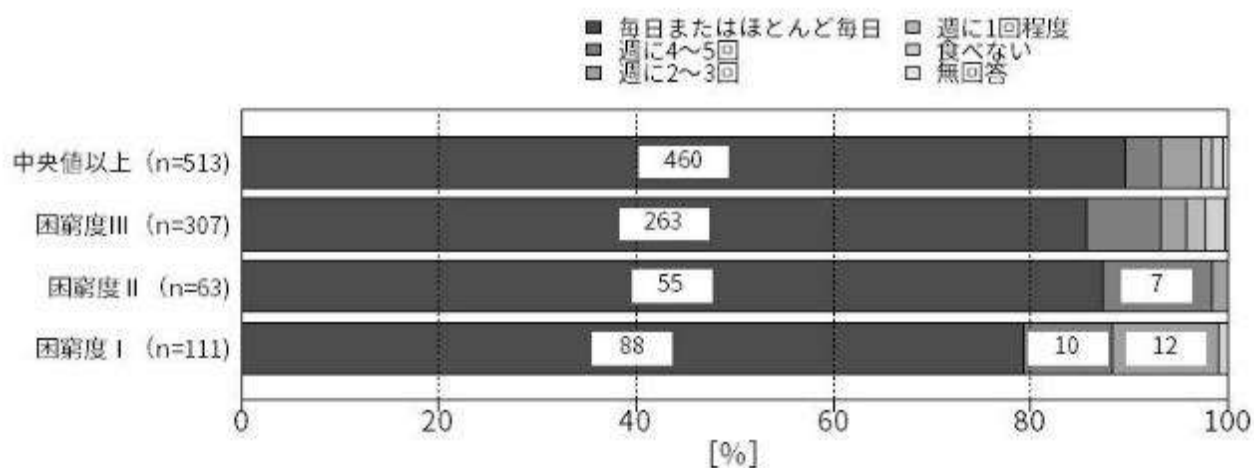
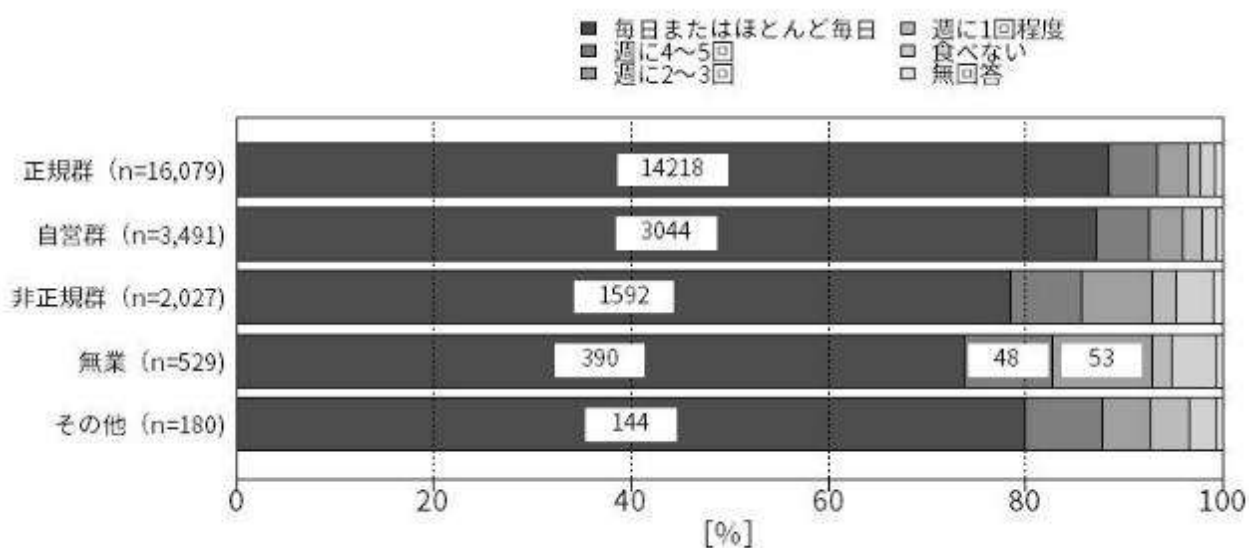


図 180. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、20.7%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

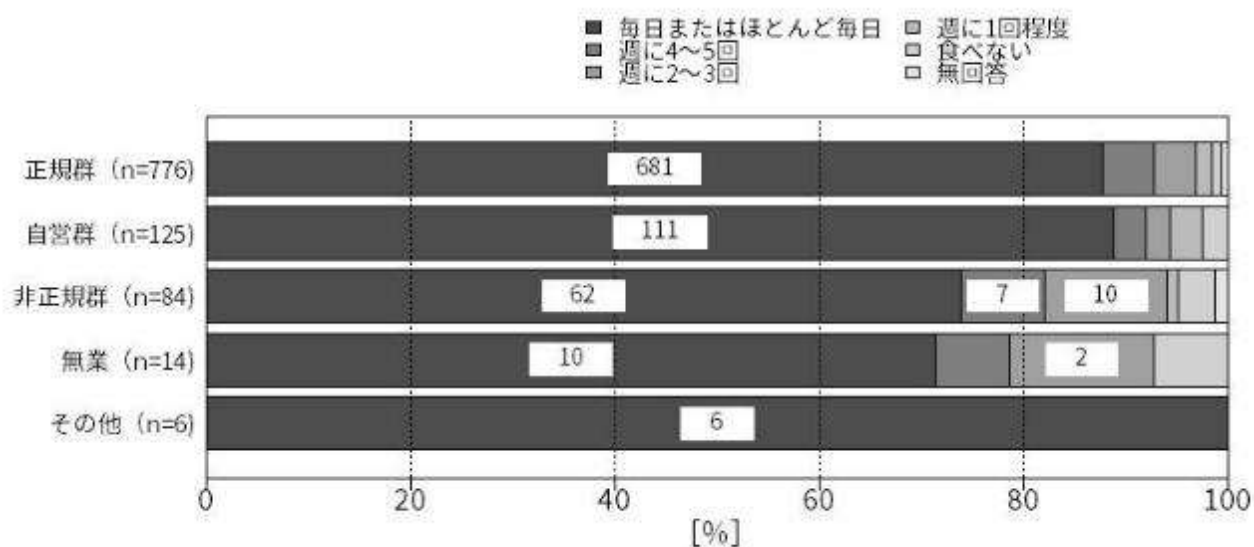
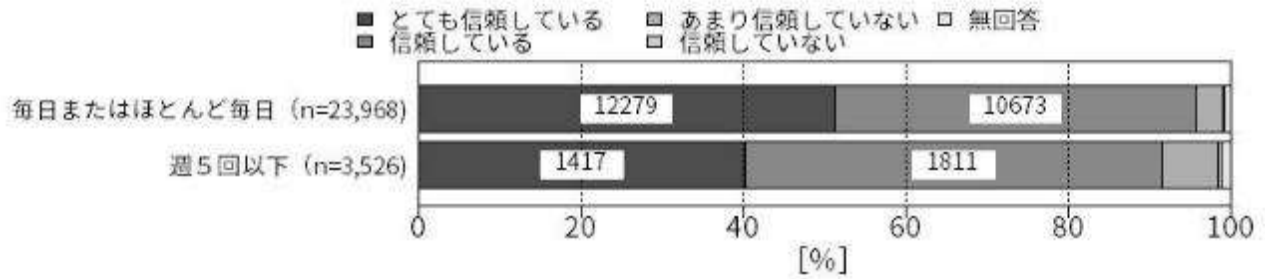


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 87.8%、「自営群」で 88.8%、「非正規群」で 73.8%、「無業」で 71.4%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

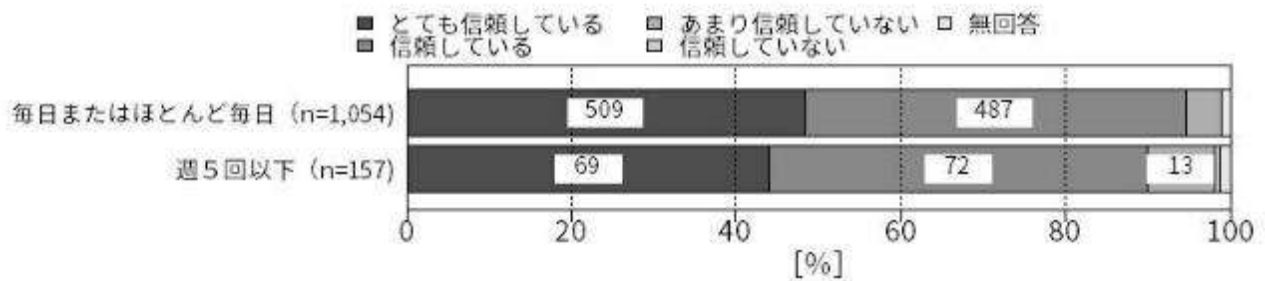


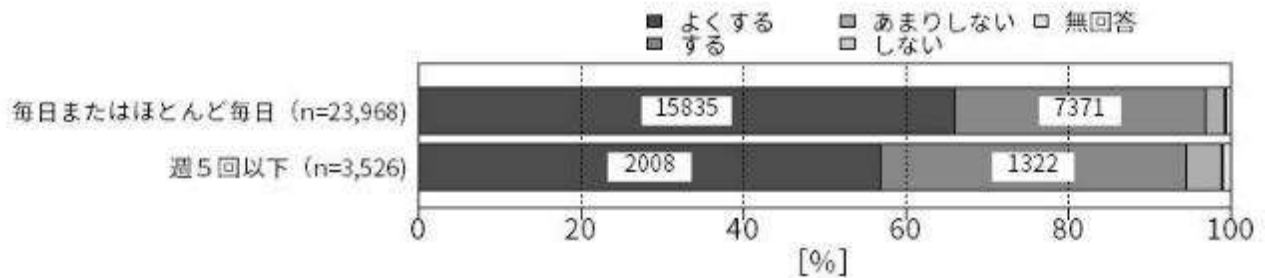
図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 48.3%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 43.9%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

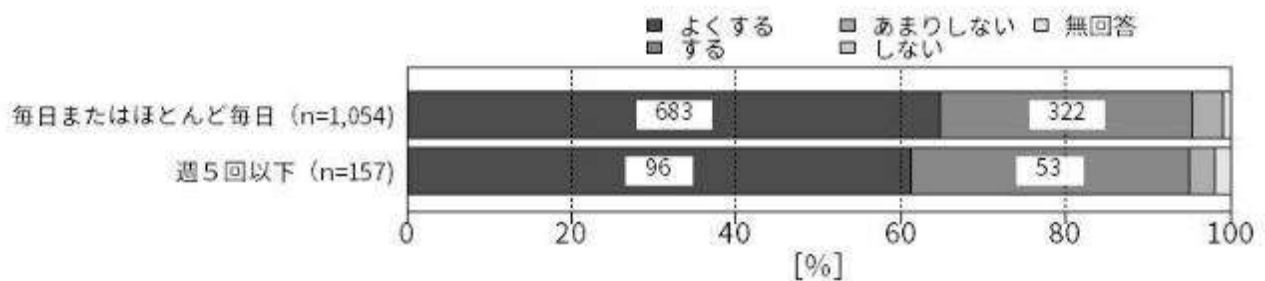
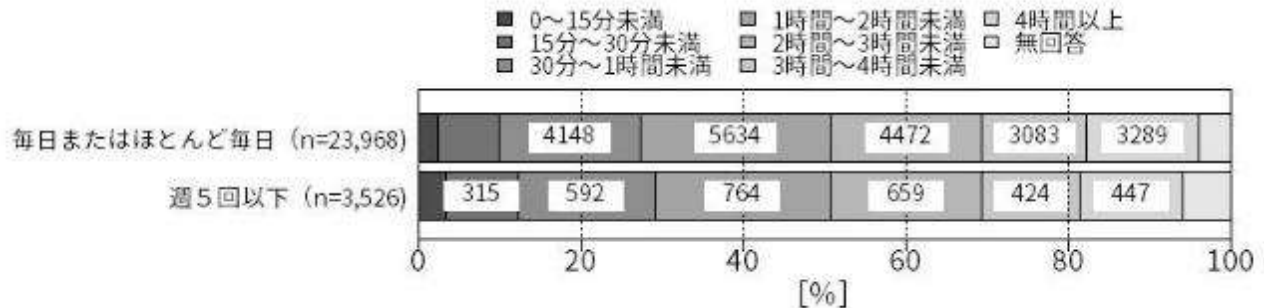


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 64.8%であり、「週 5 回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 61.1%である。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

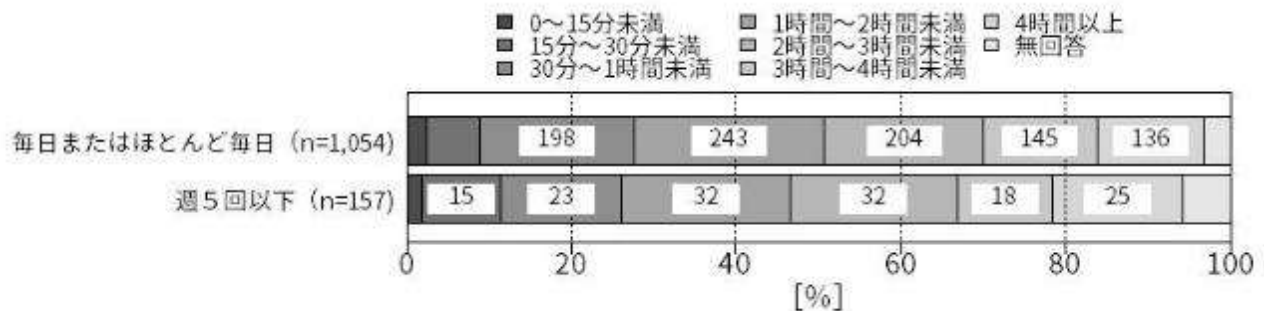
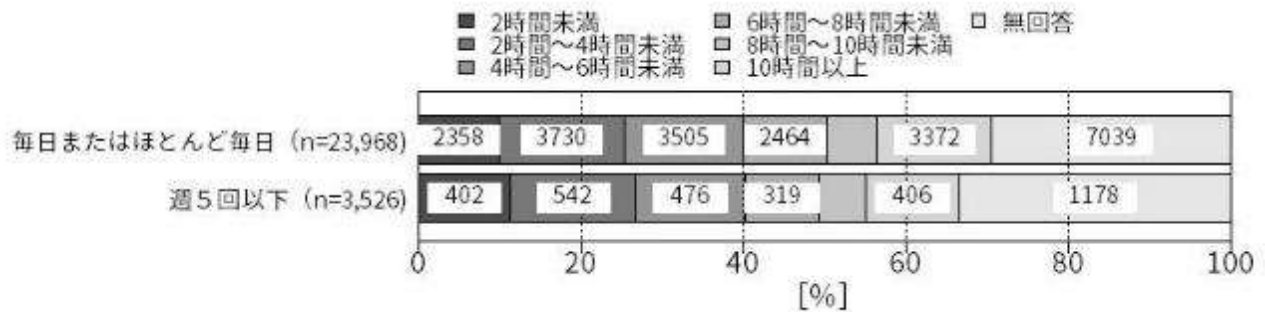


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週5回以下」の人よりも「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」と回答した割合が高かった傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

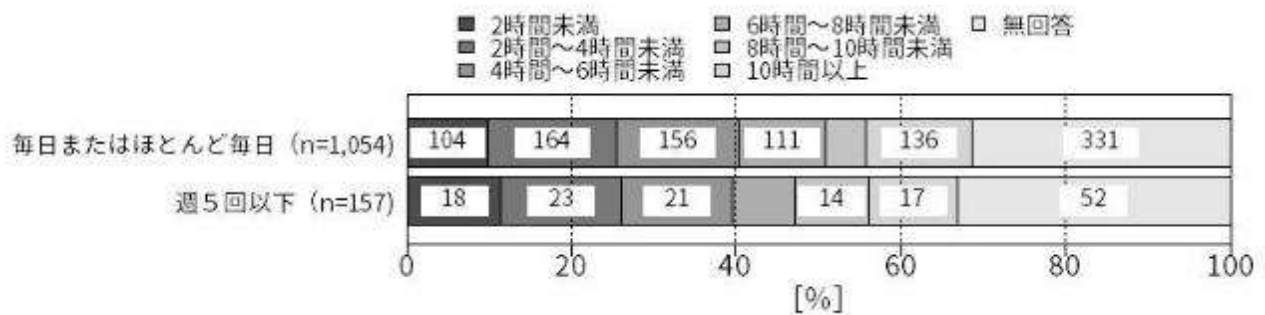
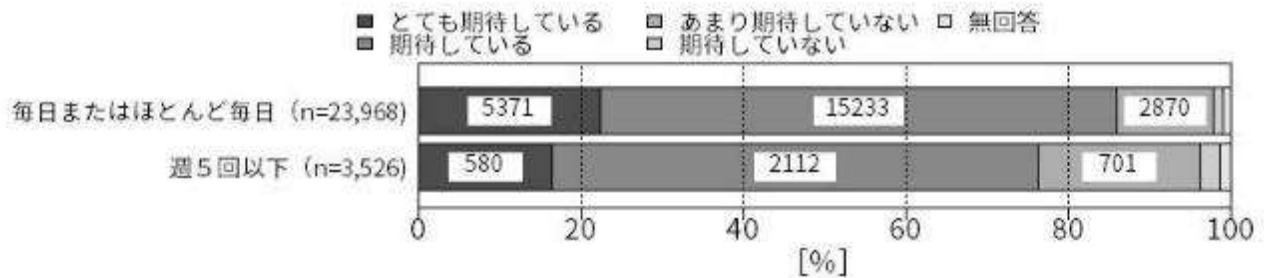


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、大きな差は見られなかった傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

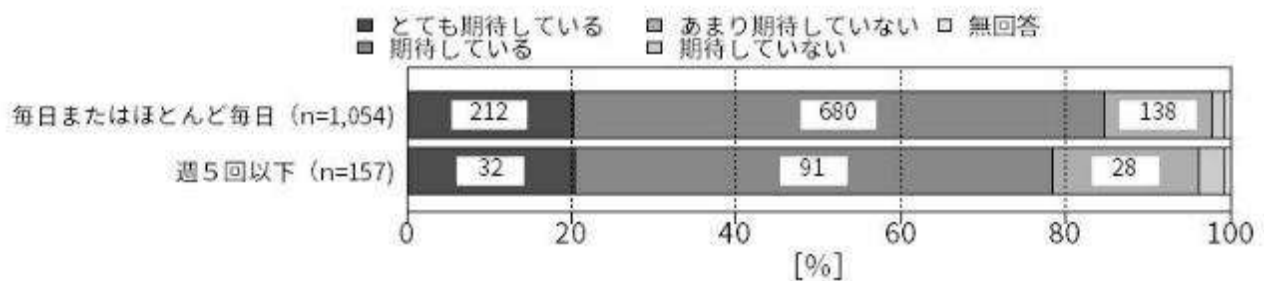


図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

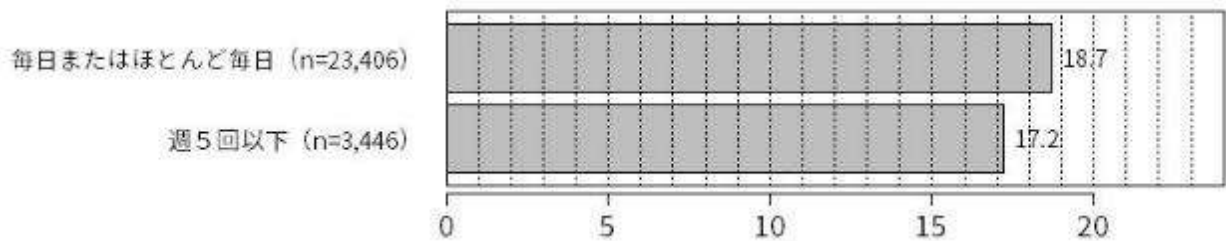
朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、84.6%であったのに対して、「週5回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて78.4%であった。

朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 5(1) × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

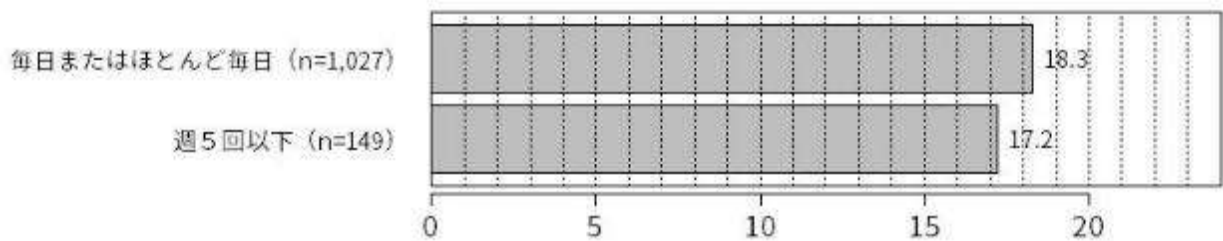
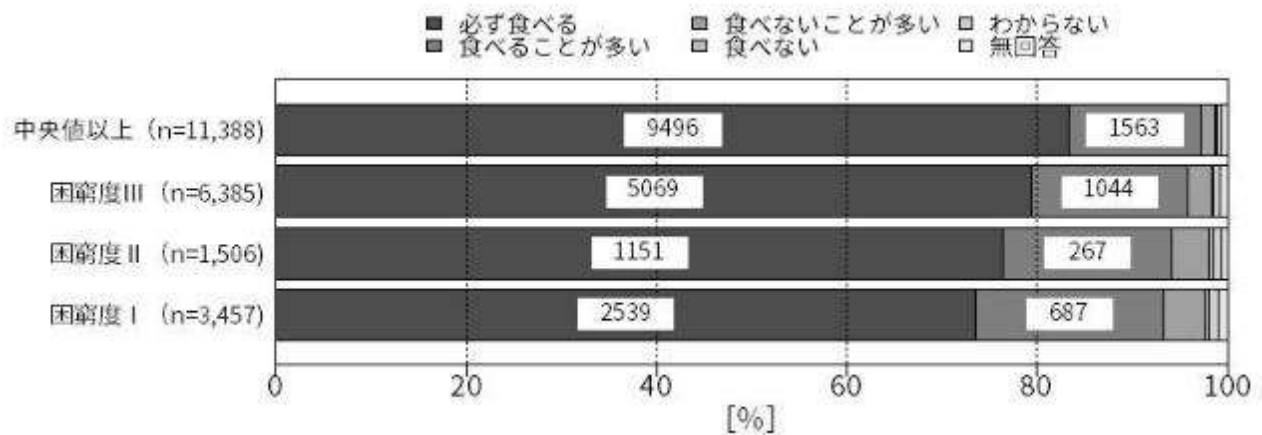


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.3 点であったのに対して、「週 5 回以下」では、17.2 点であった。

困窮度別に見た、昼食の頻度（子ども票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

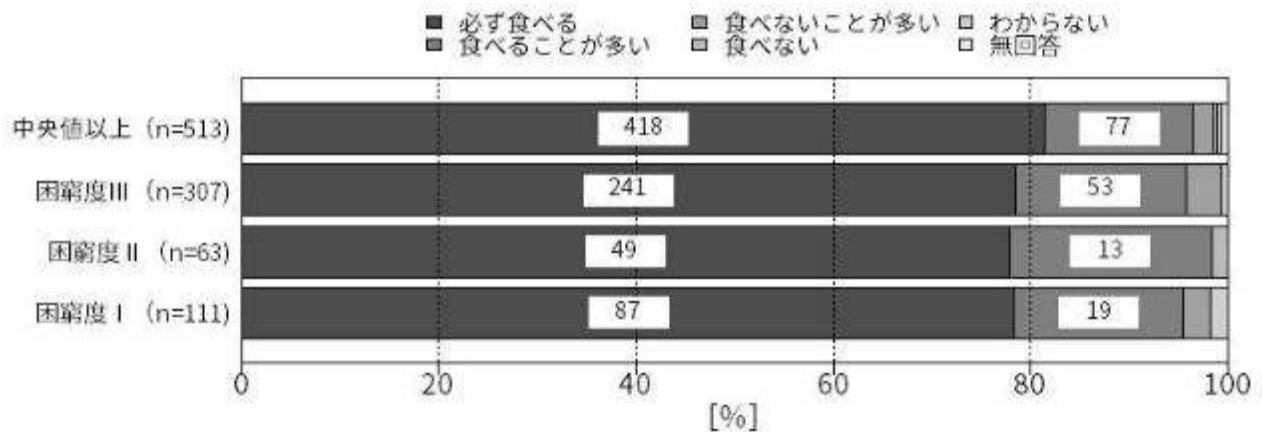
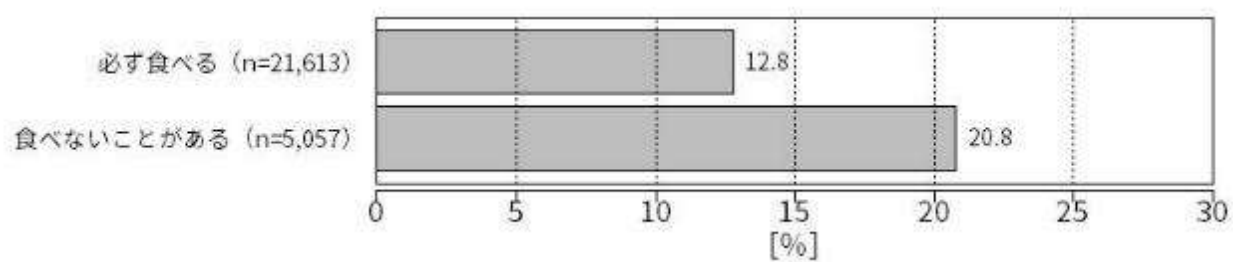


図 188. 困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 81.5%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 77.8%、困窮度Ⅰ群では 78.4%であった。

昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合（子ども票 問7 × 子ども票 問22）

<大阪市24区>



<大阪市西淀川区>

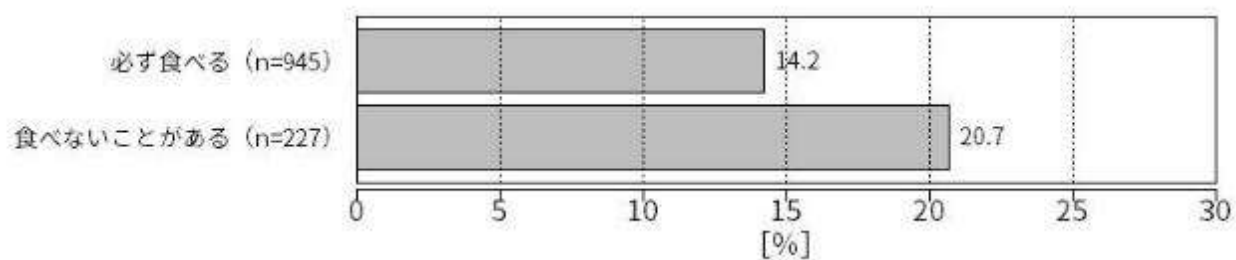


図 189. 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

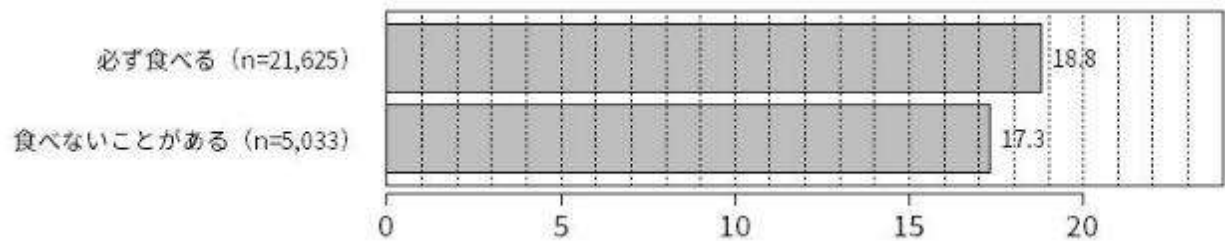
昼食を食べない群では、「相談しない」と答えた割合が 20.7%であった。

昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 7 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

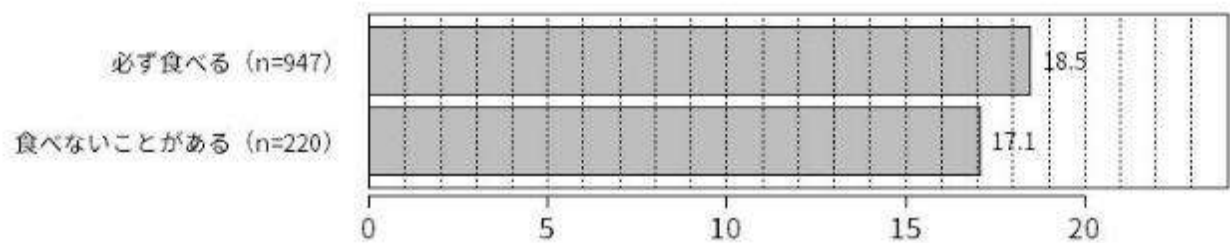
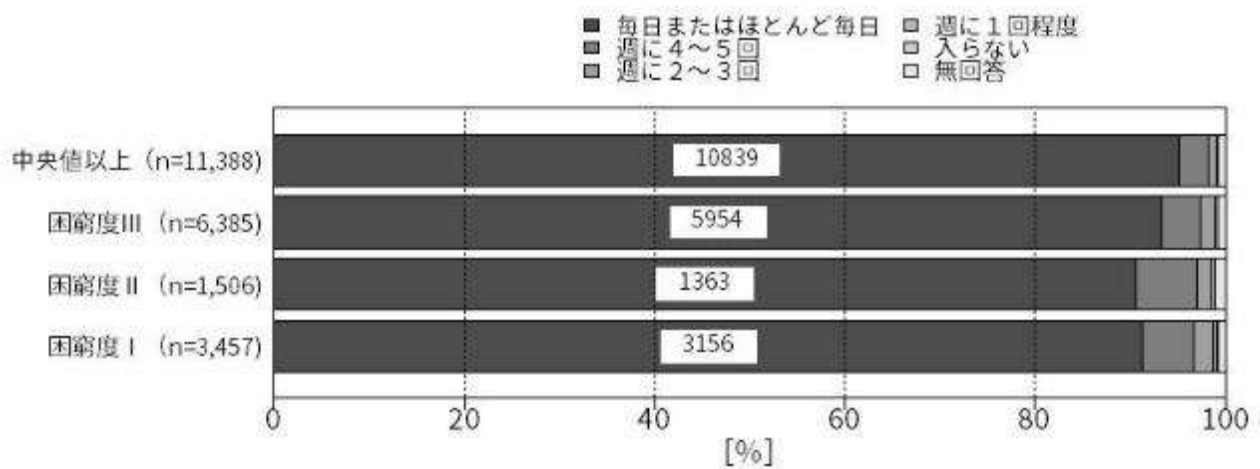


図 190. 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が 18.5 点であったのに対して、「食べないことがある」と回答した人は 17.1 点であった。

困窮度別に見た、入浴頻度（子ども票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

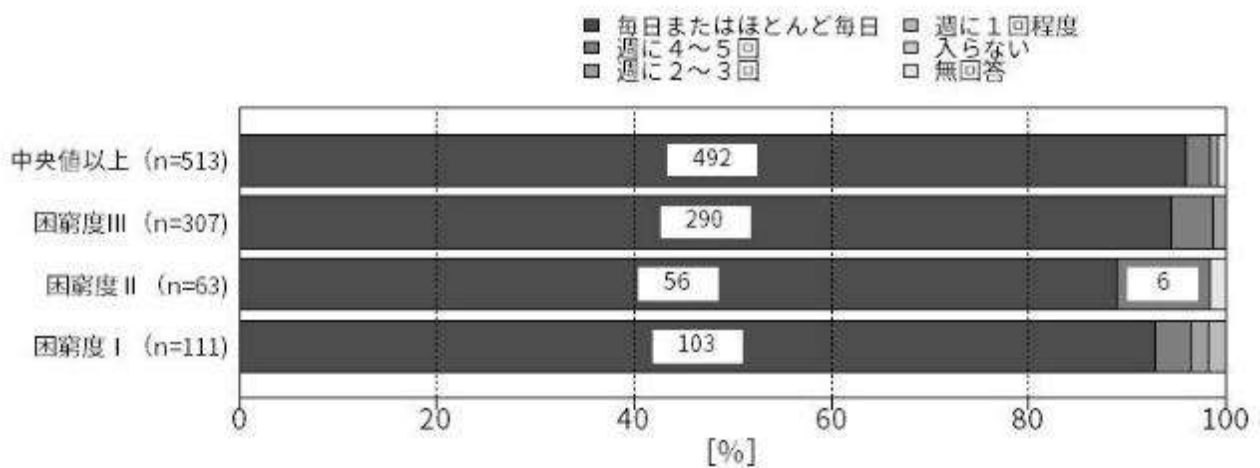
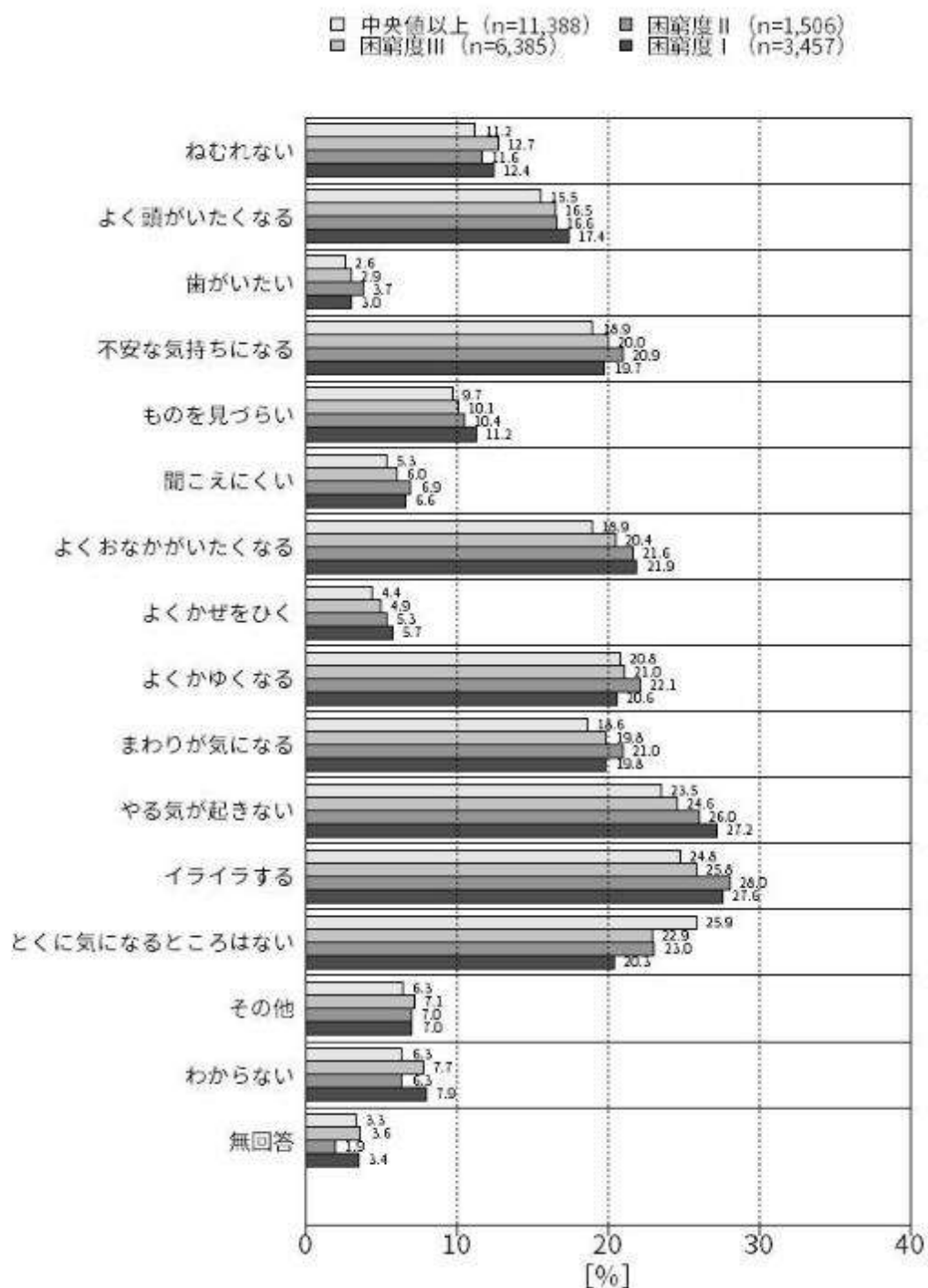


図 191. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度別に入浴頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合は中央値以上群では95.9%、困窮度Ⅰ群では92.8%であった。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（子ども票 問 24）

<大阪市 24 区>



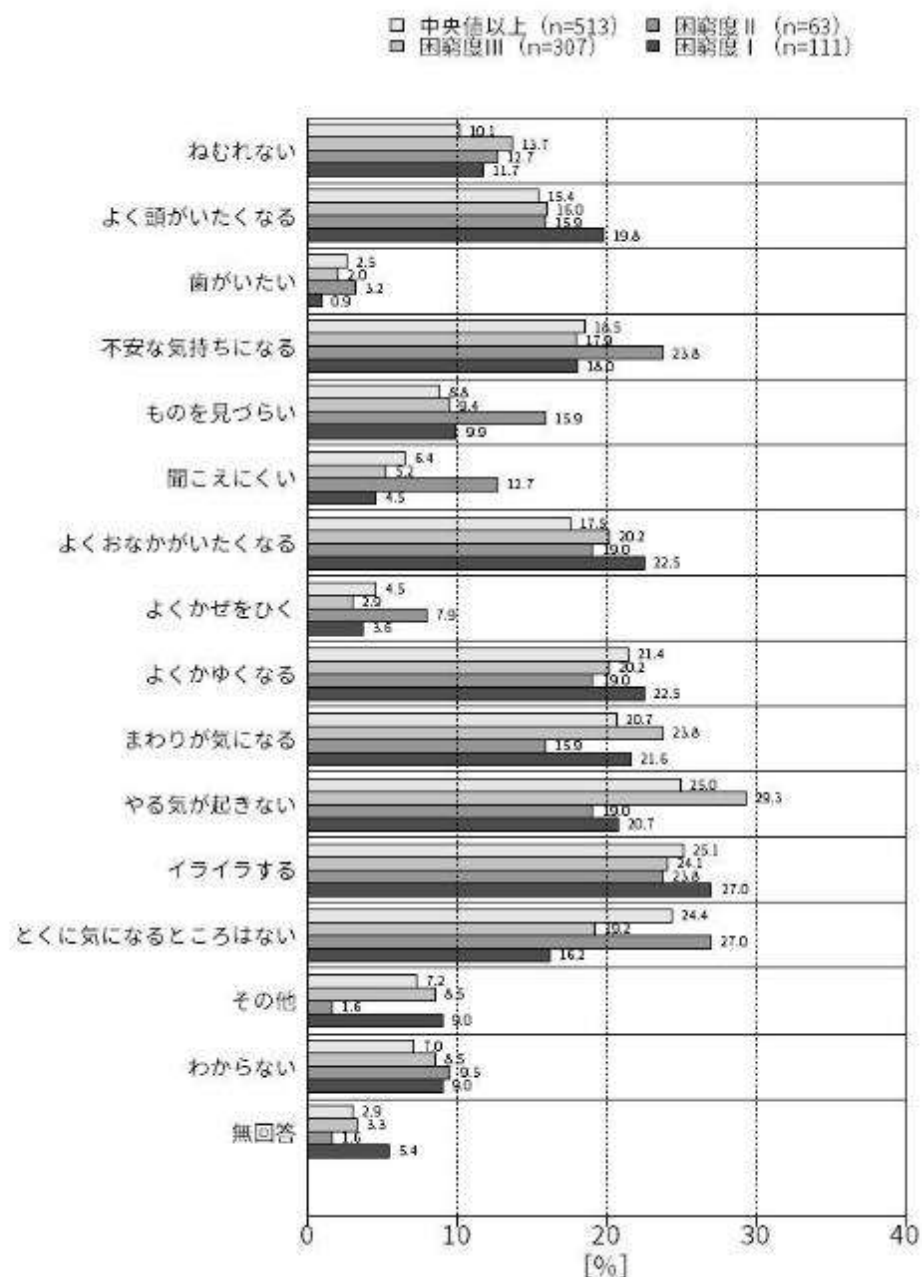


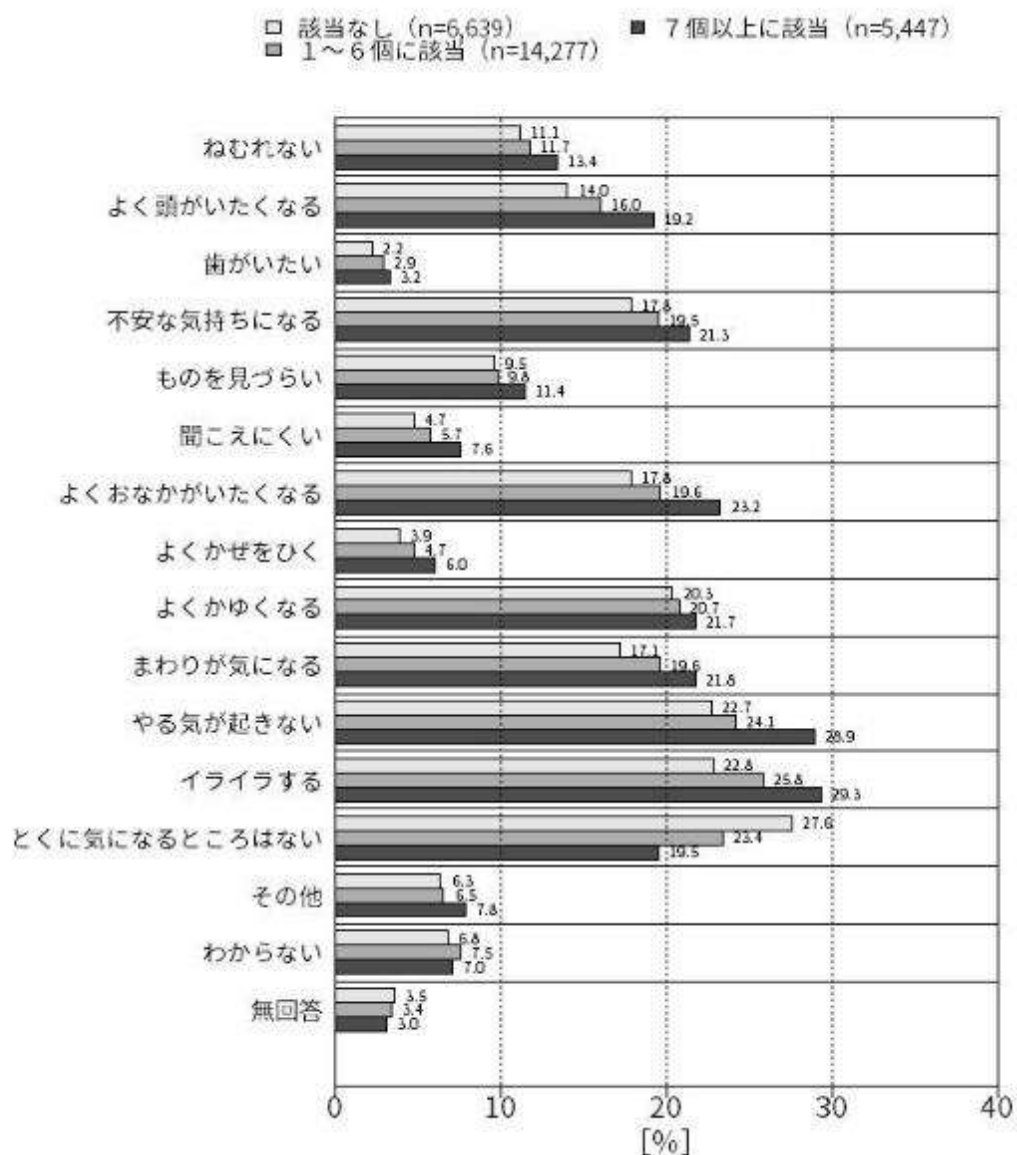
図 192. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「よくおなかがいたくなる」22.5%（中央値以上群に対して、1.3倍）、「よく頭がいたくなる」19.8%（1.3倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。さらに、中央値以上群と上記の項目ほどの差はないものの、困窮度Ⅰ群では、「やる気が起きない」20.7%（1.2倍）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問7 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



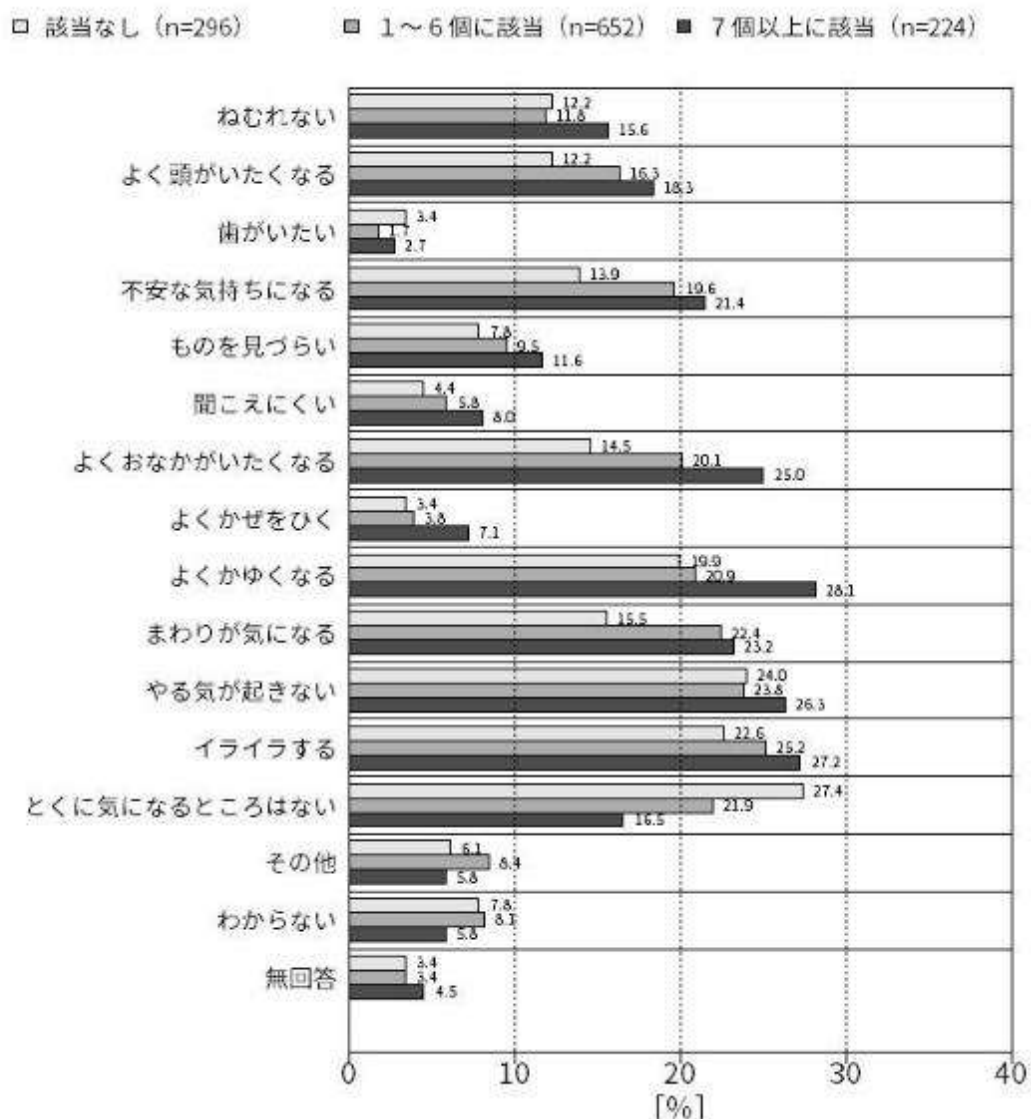
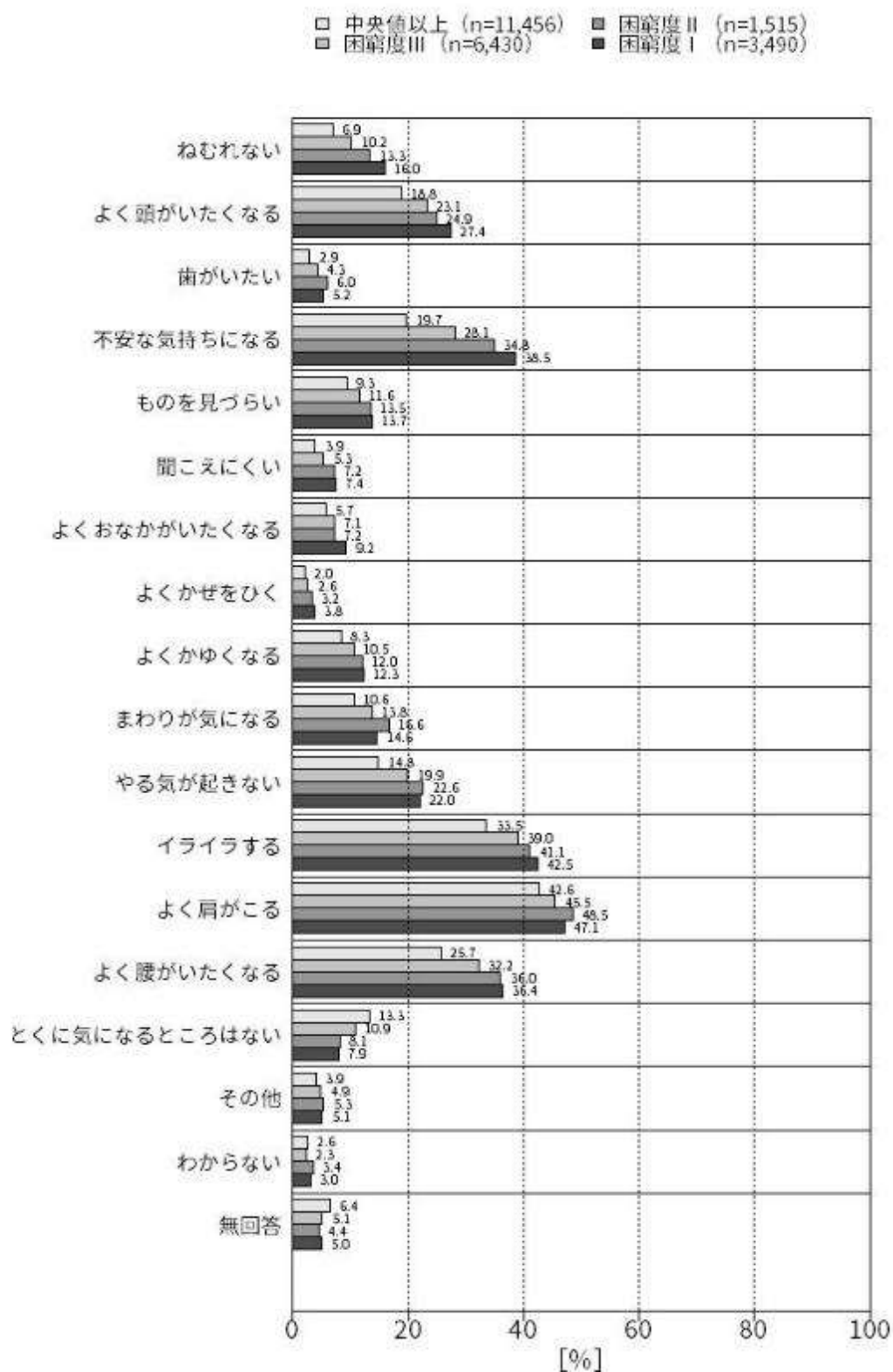


図 193. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」7.1%（「該当なし」に対し2.1倍）、「聞こえにくい」8%（1.8倍）、「よくおなかがいたくなる」25%（1.7倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「不安な気持ちになる」21.4%（1.5倍）、「よく頭がいたくなる」18.3%（1.5倍）、など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票 問 26）

<大阪市 24 区>



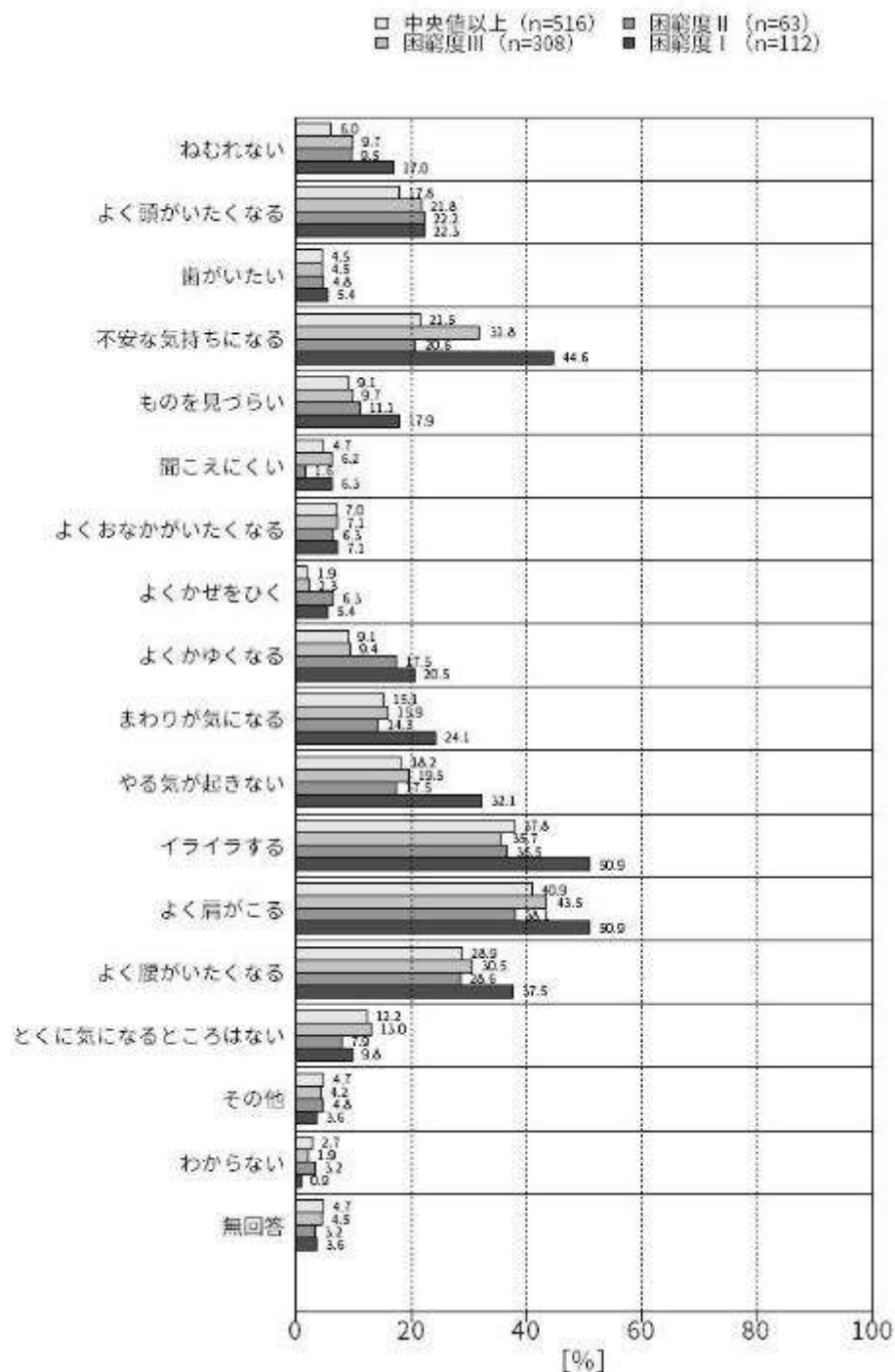


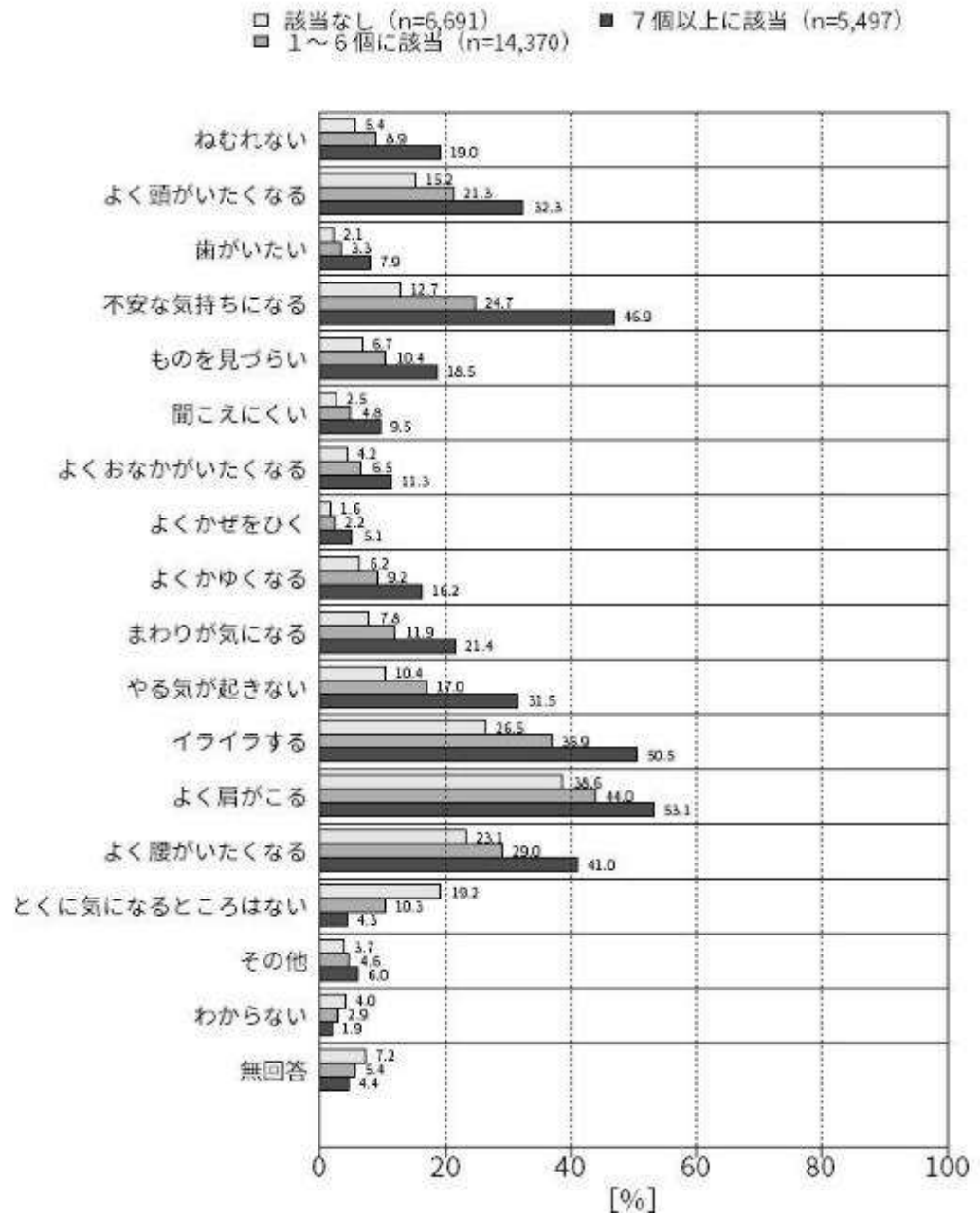
図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」5.4%（中央値以上群に対して、2.8倍）、「ねむれない」17%（2.8倍）、「よくかゆくなる」20.5%（2.3倍）となっている。つづいて、「不安な気持ちになる」44.6%（2.1倍）、「ものを見づらい」17.9%（2倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問 7 × 保護者票 問 26)

<大阪市 24 区>



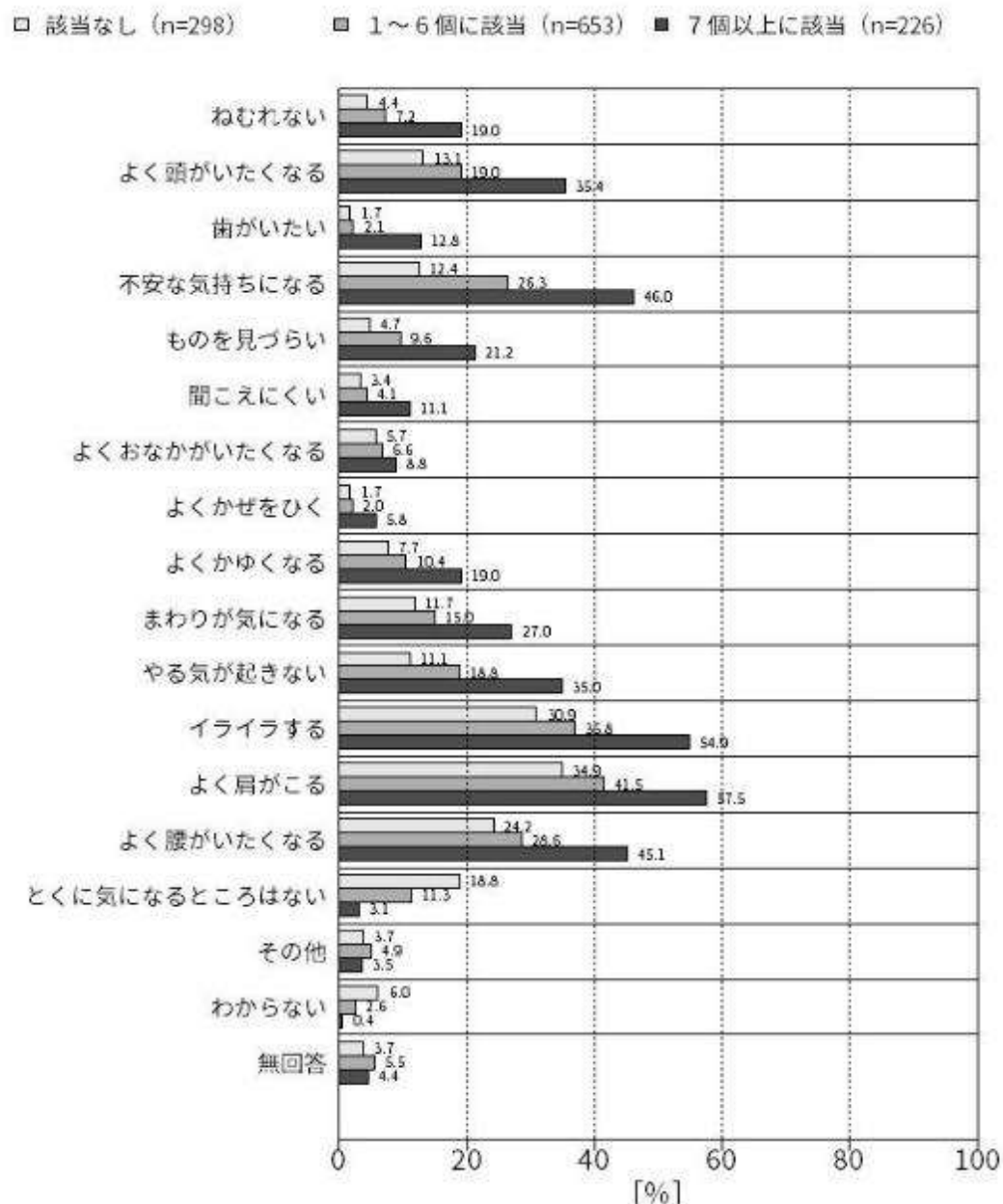
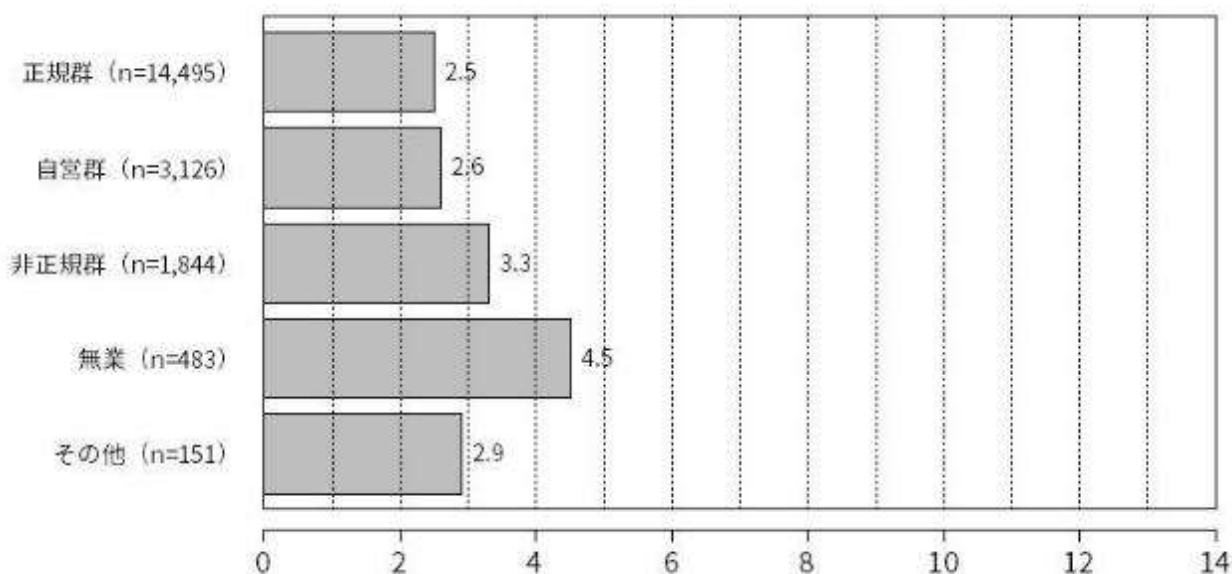


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「歯がいたい」12.8%（「該当なし」に対し7.5倍）、「ものを見づらい」21.2%（4.5倍）、「ねむれない」19%（4.3倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」54.9%（1.8倍）、「やる気が起きない」35%（3.2倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

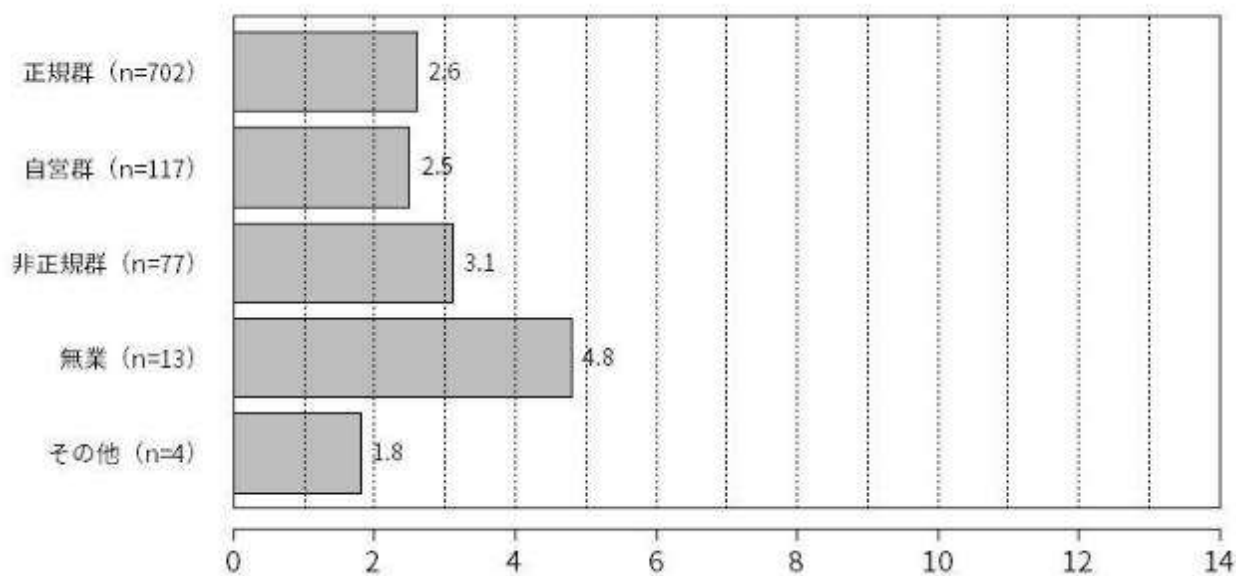


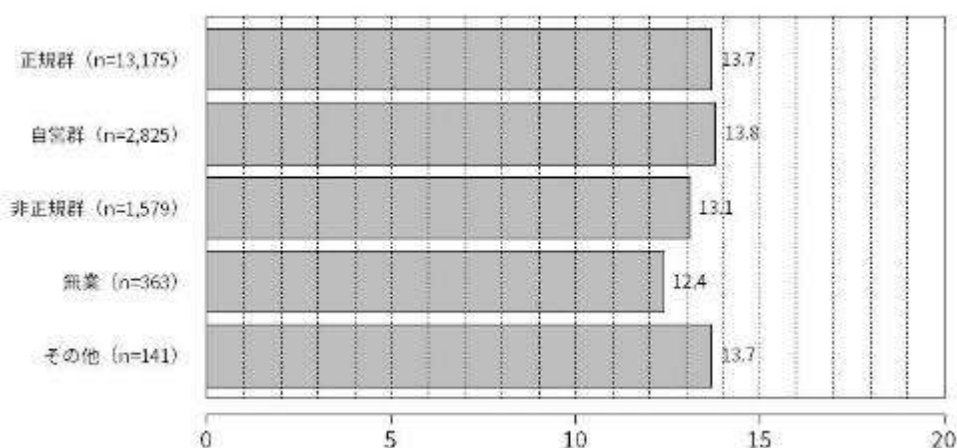
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.6 個、「自営業」では 2.5 個、「非正規群」では 3.1 個、「無業」群では 4.8 個であった。

就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の5項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの4段階で評価させ、5項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

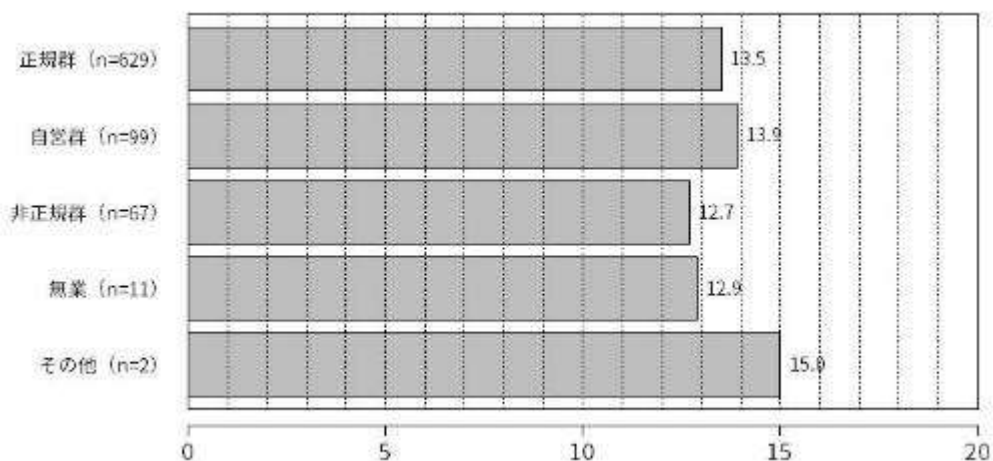


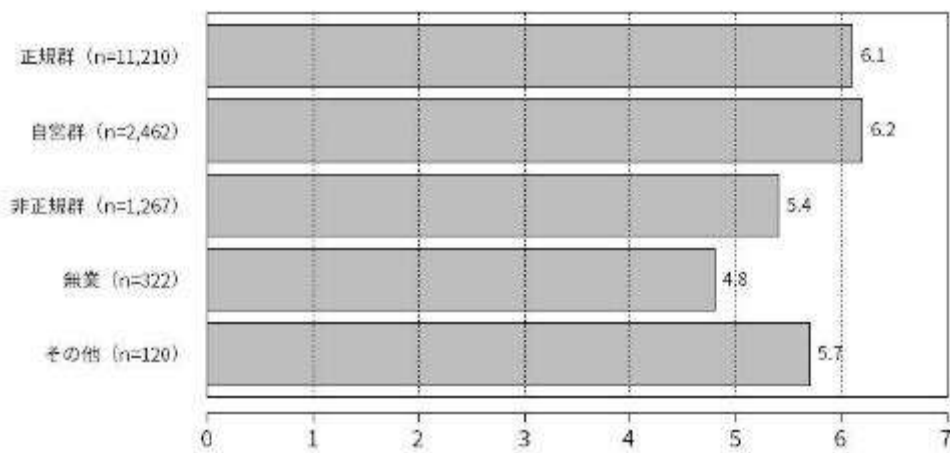
図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 13.5 点、「自営業」では 13.9 点、「非正規群」では 12.7 点、「無業」群では 12.9 点であった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票 問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

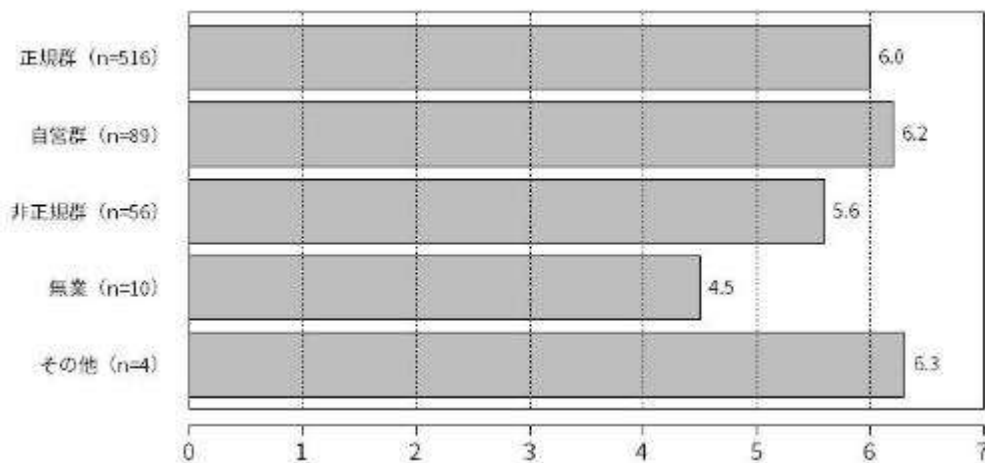
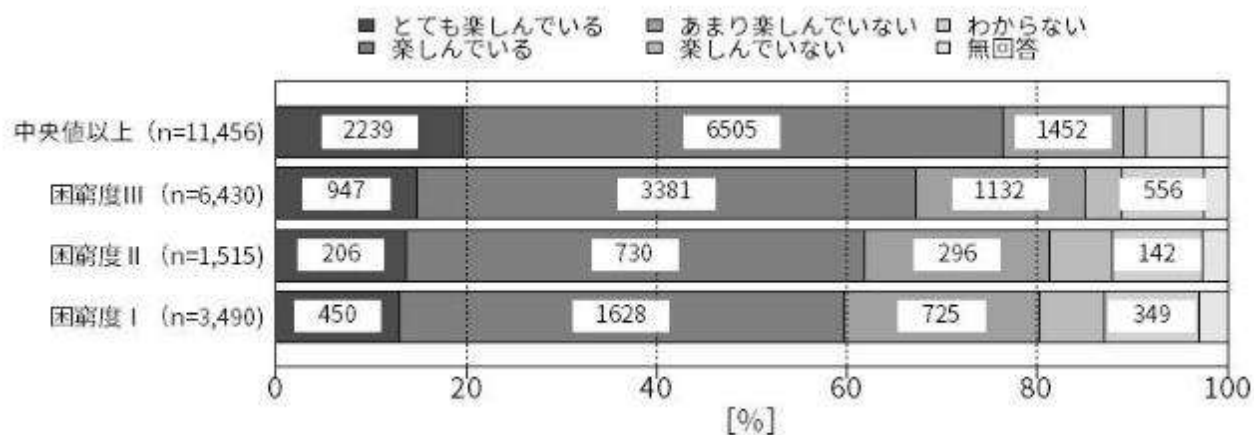


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では6.0点「自営群」では6.2点、「非正規群」で5.6点、「無職」で4.5点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

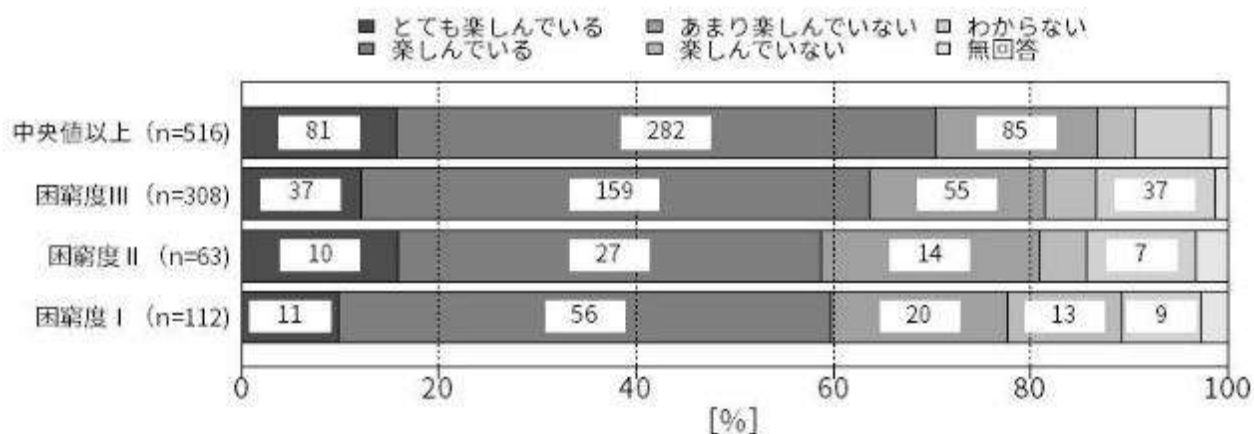
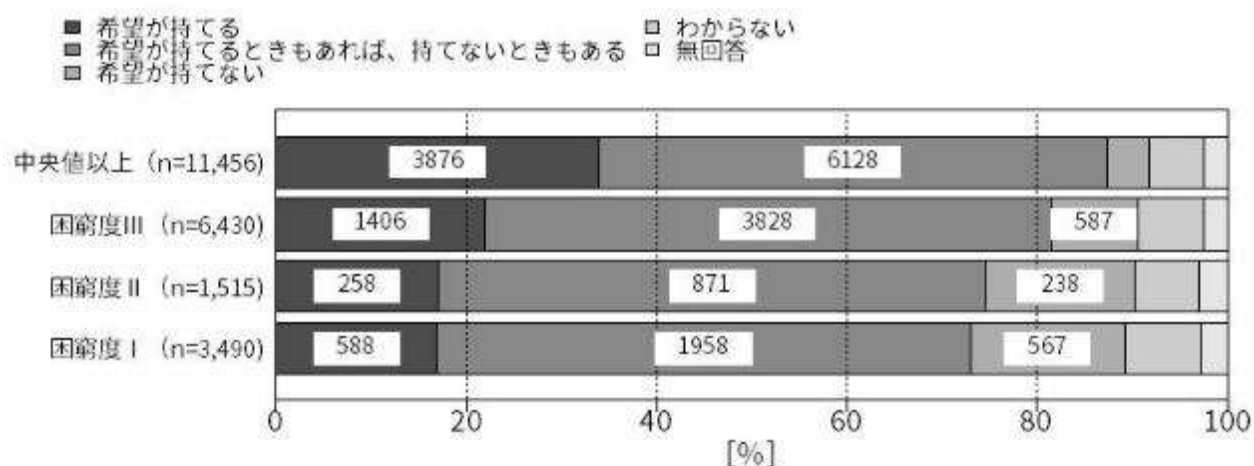


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 70.3% であり、困窮度が高まるにつれて「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群で 3.7%、困窮度Ⅲ群で 5.2%、困窮度Ⅱ群で 4.8%、困窮度Ⅰ群で 11.6%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票 問 25 (2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

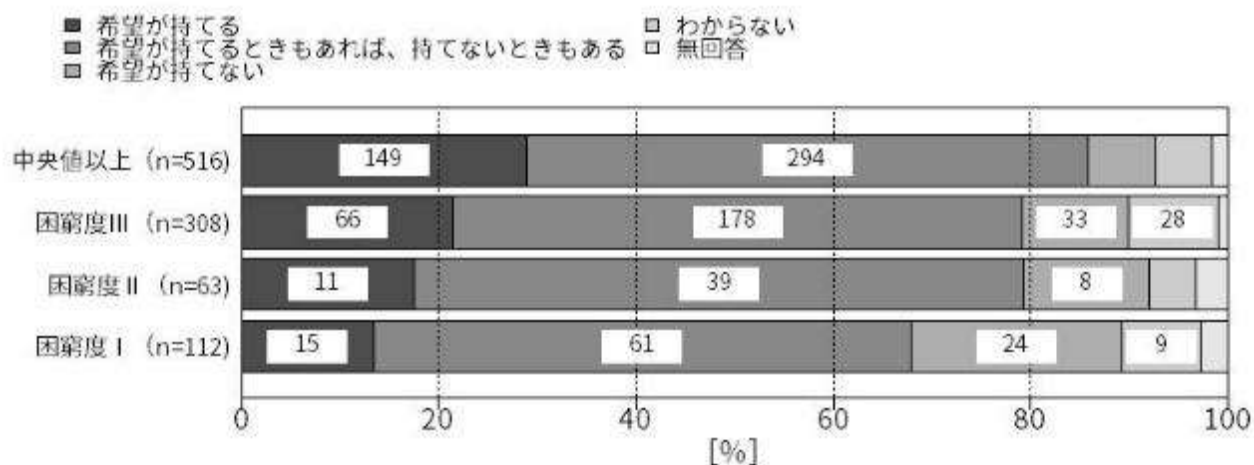
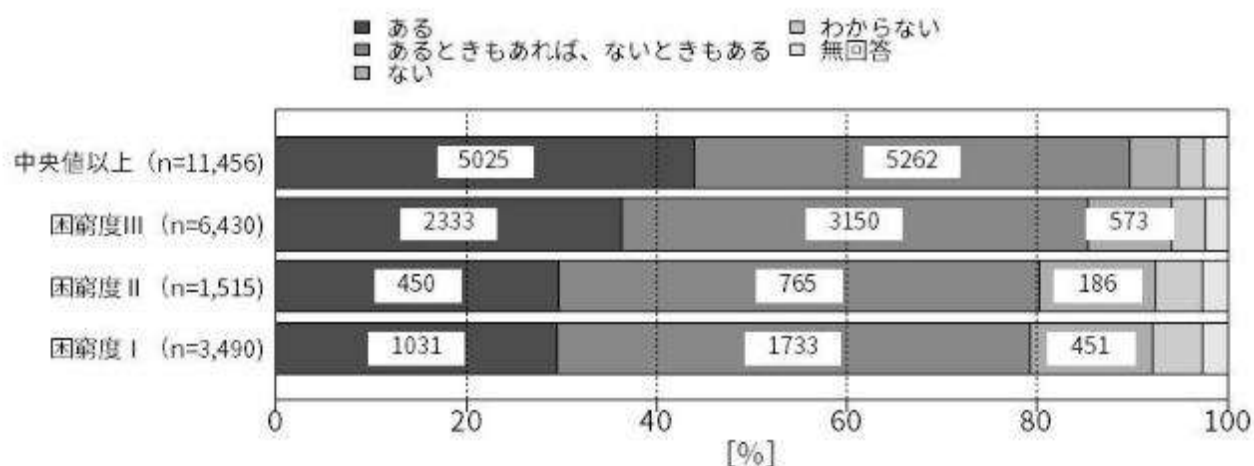


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は中央値以上群では、28.9%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では21.4%、困窮度Ⅱ群では17.5%、困窮度Ⅰ群では、13.4%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

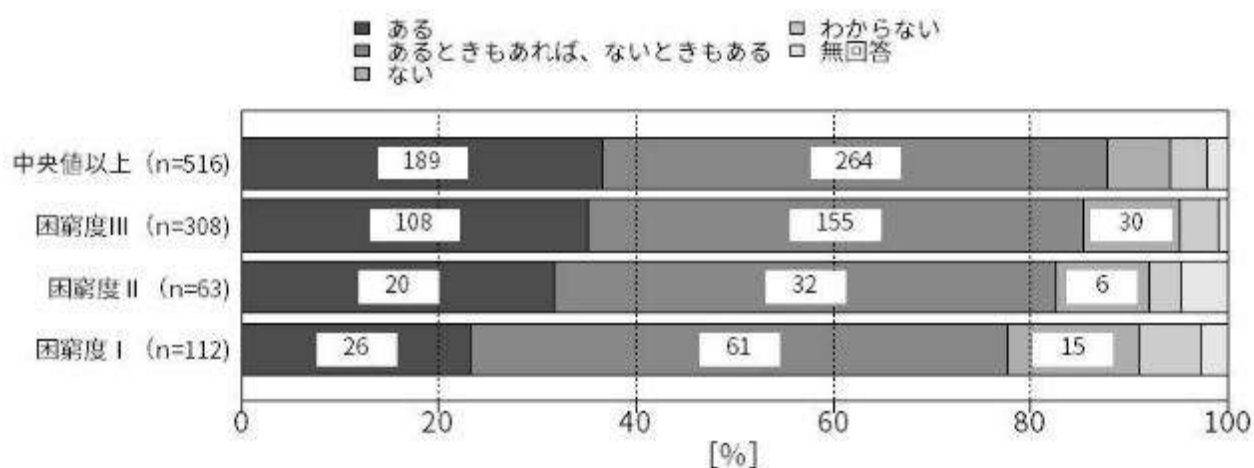
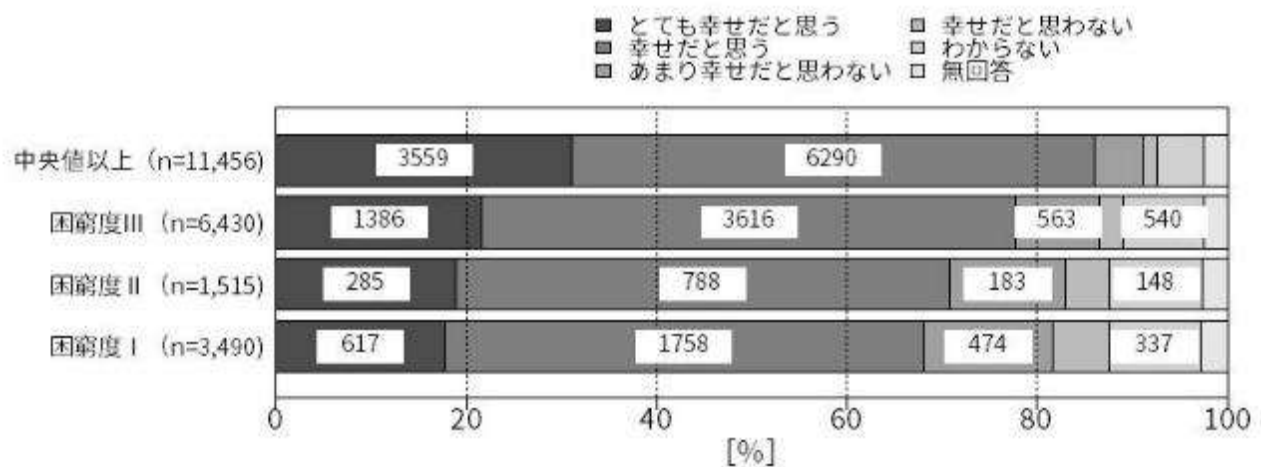


図 201. 困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると中央値以上群では、6.4 %で困窮度Ⅲ群 9.7 %、困窮度Ⅱ群 9.5 %、困窮度Ⅰ群 13.4 %となっている。また、困窮度が高まるにつれて、「ある」と回答した割合も低くなっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

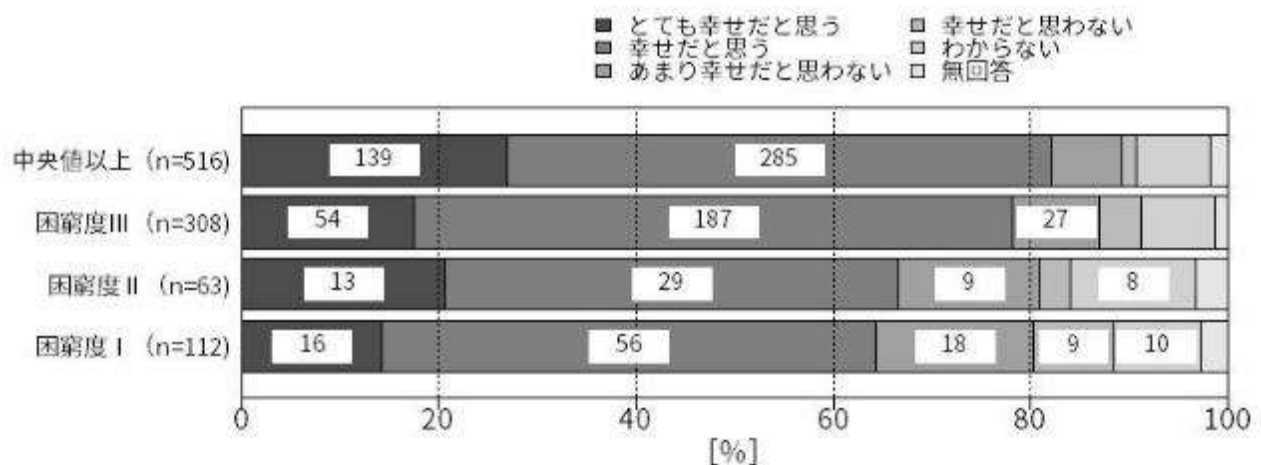
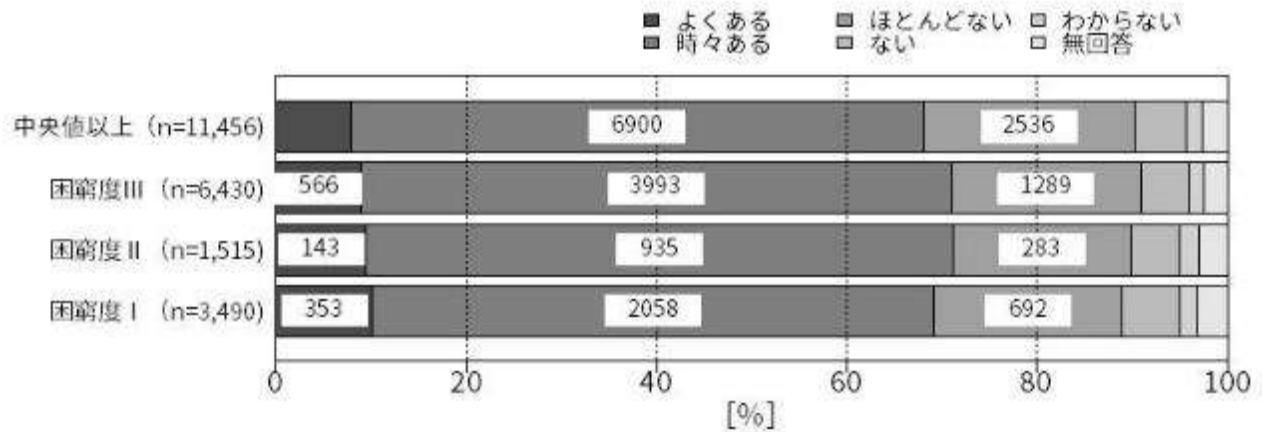


図 202. 困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」をあわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」をあわせた割合が高くなり、中央値以上群では、8.6 %で、困窮度Ⅲ群 13 %、困窮度Ⅱ群 17.5 %、困窮度Ⅰ群では 24.1 %となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
(保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

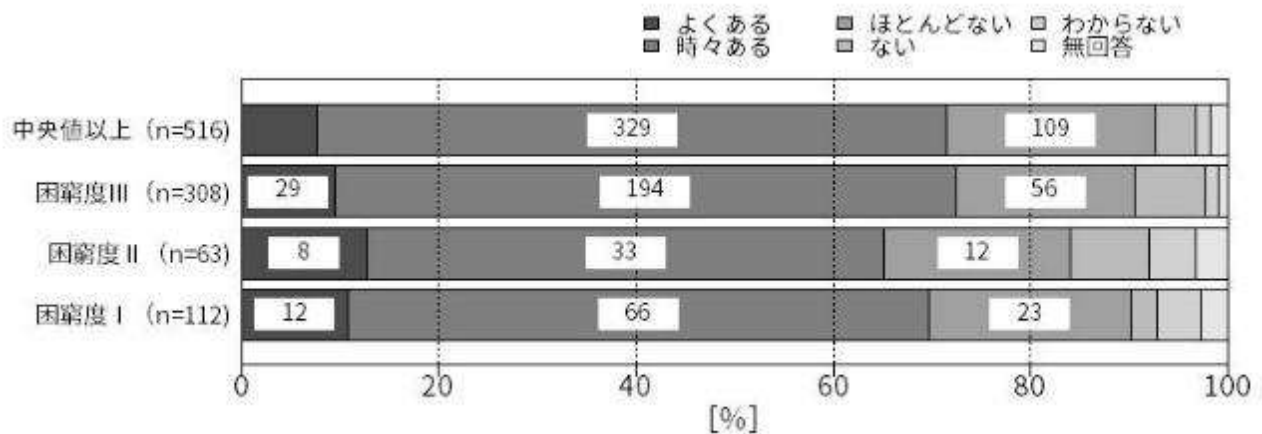
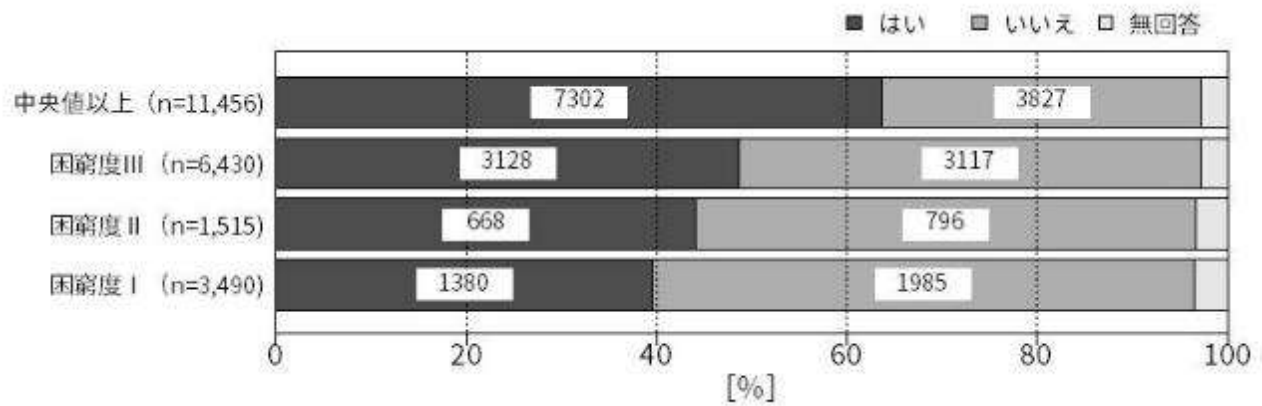


図 203. 困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られない。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票 問 28）

<大阪市 24 区>



<大阪市西淀川区>

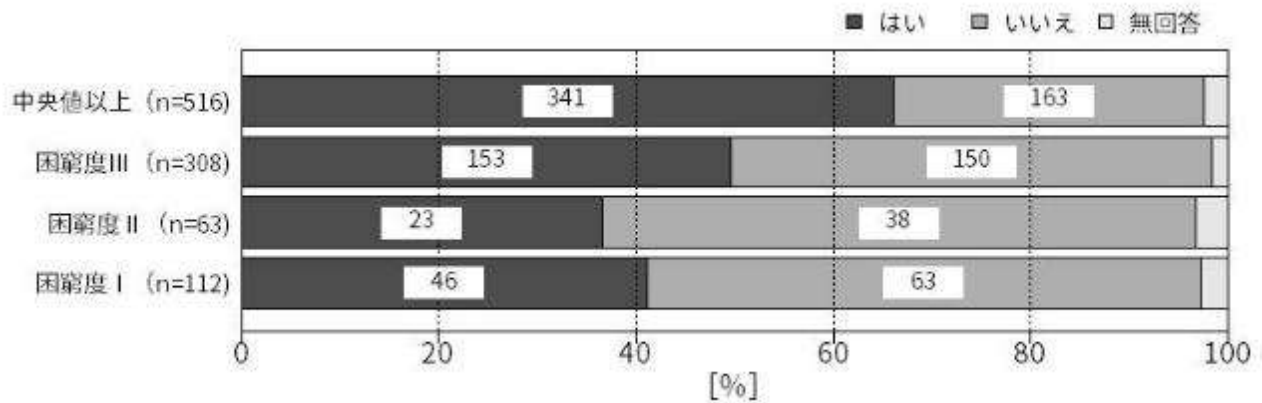


図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 66.1%であり、困窮度Ⅰ群では 41.1%であった。